千葉市種ヶ谷津遺跡（第６・７次）

－第二グラウンド整備に伴う埋蔵文化財調査報告書－

2023

公益財団法人 千葉市教育振興財団

千葉市種ヶ谷津遺跡（第６・７次）

－第二グラウンド整備に伴う埋蔵文化財調査報告書－

2023

公益財団法人 千葉市教育振興財団

例言

1　本書は、千葉市中央区生実町 2689-1、2579-1、2580-1、2548-4、2692-1、2688-1、2689-1 の各一部に所在する種ヶ谷津遺跡の第二グラウンド整備に伴う第６・７次発掘調査報告書である。

2　発掘調査および整理作業は、学校法人千葉明徳学園の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課の指導のもと公益財団法人千葉市教育振興財団が実施した。

3　発掘調査の期間・面積・担当者は以下のとおりである。

・確認調査

期間：2019（平成 31）年２月４日～2019（平成 31）年３月１日　面積：184 ㎡/2,486 ㎡　担当者：井出祥子（千葉市埋蔵文化財調査センター）、期間：2020（令和２）年２月 27 日～2020（令和２）年３月 25 日　面積：532 ㎡/4,239 ㎡　担当者：井出祥子、期間：2020（令和２）年６月８日～2020（令和２）年７月７日　面積：356 ㎡/3,539 ㎡　担当者：井出祥子

・本調査

第６次

期間：2021（令和３）年４月 14 日～2021（令和３）年５月 12 日　面積：347 ㎡　担当者：小林嵩（公益財団法人千葉市教育振興財団）、期間：2021（令和３）年７月 19 日～2021（令和３）年９月７日　面積：474 ㎡　担当者：小林嵩、期間：2022（令和４）年４月７日～2022（令和４）年６月６日　面積：1,226 ㎡　担当者：小林嵩

第７次

期間：2023（令和５）年１月 15 日～2023（令和５）年３月６日　面積：200 ㎡　担当者：小林嵩

4　整理作業および本書の製作・編集は、吉村瑶子・新田浩美・北田典子・佐藤ひかるの協力を得て、小林が行った。

5　整理期間は、2023（令和５）年４月１日～９月29 日にかけて、断続的に行った。

6　遺構・遺物の撮影は小林が行った。

7　本書の執筆は、第１章は白根義久（千葉市埋蔵文化財調査センター）が行い、他は小林が行った。

8　出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。

9　発掘調査から報告書刊行まで、以下の諸機関の御指導・御協力を賜った。

千葉県教育委員会・千葉市教育委員会・学校法人千葉明徳学園

凡例

1　本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。

2　土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版　標準土色帖」による。

3　本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構実測図：1/40・1/60・1/80・1/100

遺物実測図：土器 1/4・1/3　土製品・石製品 1/3・1/1

4　遺構・遺物の図面は Adobe Systems 社製 Adobe Illustrator で編集作業を行った。

5　遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、Adobe Systems 社製 Adobe Photoshop で編集作業を行った。

6　本文中の遺構の略称は以下のとおりである。

竪穴建物跡：SI　土坑：SK　柱穴：P　溝状遺構：SD

目次

例言・凡例
目次
第１章　調査に至る経緯 …… 1
第２章　種ヶ谷津遺跡の概要 …… 1
　１　遺跡の立地と周辺の遺跡 …… 1
　２　過去の調査歴 …… 6
　３　調査・整理の方法 …… 6
第３章　検出した遺構と遺物 …… 6
　１　縄文時代 …… 6
　２　弥生時代 …… 9
　３　古墳時代 …… 9
　４　奈良・平安時代 …… 17
　５　近世 …… 19
　６　時期不明遺構 …… 19
第４章　まとめ …… 25
写真図版
抄録

表目次

第１表　出土遺物集計表 …… 27　第２表　出土遺物観察表 …… 28

挿図目次

第１図　遺跡の位置と関連する周辺の遺跡 …… 2　第２図　種ヶ谷津遺跡と周辺遺跡の調査歴 …… 3
第３図　調査区配置図 …… 4　第４図　遺構配置図 …… 5
第５図　第 88・89・93・96 号土坑 …… 7　第６図　第 98・104 号土坑、縄文時代遺構外・弥生時代遺構外 …… 8
第７図　第 29 号竪穴建物跡（１） …… 10　第８図　第 29 号竪穴建物跡（２） …… 11
第９図　第 29 号竪穴建物跡（３）、第１号墳 …… 13　第 10 図　第２号墳（１） …… 14
第 11 図　第２号墳（２） …… 15　第 12 図　第３号墳（１） …… 16
第 13 図　第３号墳（２） …… 17　第 14 図　第４号墳 …… 18
第 15 図　古墳時代遺構外・奈良・平安時代遺構外 …… 19　第 16 図　第３号溝状遺構 …… 20
第 17 図　第４号溝状遺構、近世遺構外 …… 21　第 18 図　時期不明遺構（１） …… 22
第 19 図　時期不明遺構（２） …… 23

写真図版目次

図版１　第 88 号土坑、第 89 号土坑、第 93 号土坑、第 96 号土坑、第 98 号土坑、第 104 号土坑、第 29 号竪穴建物跡、第 29 号竪穴建物跡貯蔵穴
図版２　第１号墳、第１号墳主体部、第１号墳・第３号溝土層断面、第２号墳、第３号墳（R3 年度）、第３号墳（R4 年度）、第４号墳、第３号溝状遺構
図版３　第４号溝状遺構土層断面、第 87 号土坑、第 90 号土坑、第 91 号土坑、第 92 号土坑、第 94 号土坑、第 95 号土坑、第 97 号土坑

図版４　第 99 号土坑、第 100 号土坑、第 101 号土坑、第 102 号土坑、第 103 号土坑、第 23 号柱穴、第 24 号柱穴、第 25 号柱穴
図版５　第 26 号柱穴、第 27 号柱穴、調査風景１～６
図版６　第 93 号土坑、第 96 号土坑、縄文時代遺構外、第 29 号竪穴建物跡
図版７　第 29 号竪穴建物跡
図版８　第 29 号竪穴建物跡、第１号墳、第２号墳
図版９　第３号墳、第４号墳、古墳時代遺構外、奈良・平安時代遺構外、第３号溝状遺構、近世遺構外

第１章　調査に至る経緯

平成 30 年 12 月 27 日付けおよび令和元年６月７日付けで、学校法人千葉明徳学園理事長福中儀明（以下「事業者」という。）から、明徳学園第二グラウンド整備を計画している千葉市中央区生実町 2548-4 ほか(78,727 ㎡)について、埋蔵文化財の有無照会の依頼があった。試掘調査を実施したところ、遺構・遺物が確認され、「遺跡あり」及び土木工事を実施する際は文化財保護法第 93 条に基づく届出が必要な旨を通知した。平成 31 年１月 23 日、令和２年１月 17 日付けで法 93 条の届出が提出され、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。対象範囲が広範囲にわたるため、確認調査は３期にわたり、千葉市埋蔵文化財調査センターが実施した。その結果、古墳時代の円墳周溝や竪穴住居跡が検出され、その結果を踏まえて合計 5,838 ㎡について「本調査」が必要な旨の通知を行った。これにより事業者と協議を重ね、土木工事により埋蔵文化財に影響が生じる範囲 2,047 ㎡を対象とする発掘調査を行うことで合意し、公益財団法人千葉市教育振興財団に発掘調査を依頼することで協議が整った。

第２章　種ヶ谷津遺跡の概要

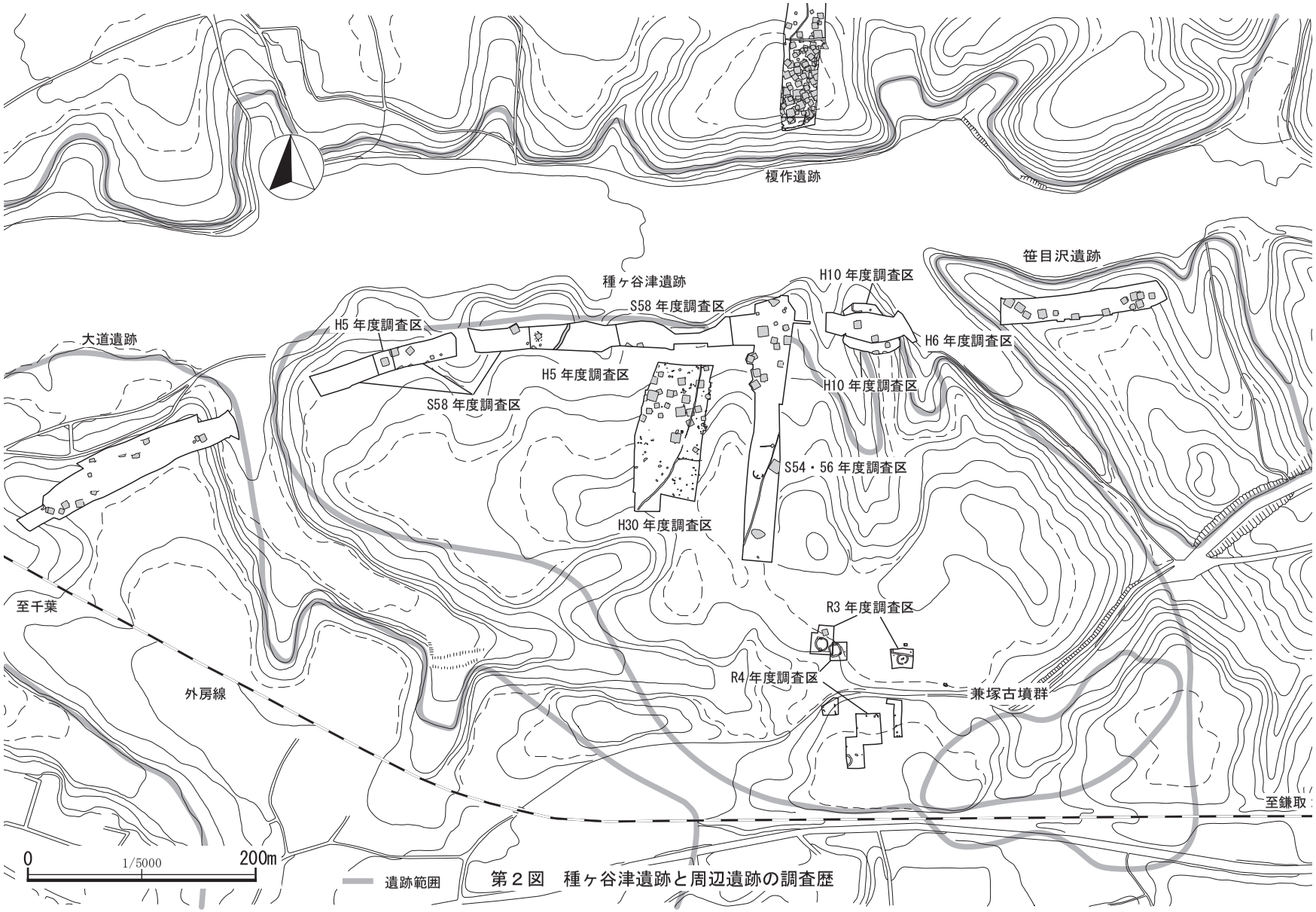
１　遺跡の立地と周辺の遺跡（第１図）

種ヶ谷津遺跡は、千葉市南西部にある生実谷の支谷である赤井谷津に面した台地上に位置している。赤井谷津は東京湾に向けて開口する幅約 100 ｍの谷津である。種ヶ谷津遺跡は赤井谷津南側の台地上に位置している。台地の両側には支谷が入り込み、その間の東西約 650 ｍ、南北約 300 ｍが遺跡の範囲となる。台地は北に向けて緩やかに傾斜しており、谷津に面した台地縁辺部に集落域が展開し、谷津から離れるに従い遺構は希薄となる。

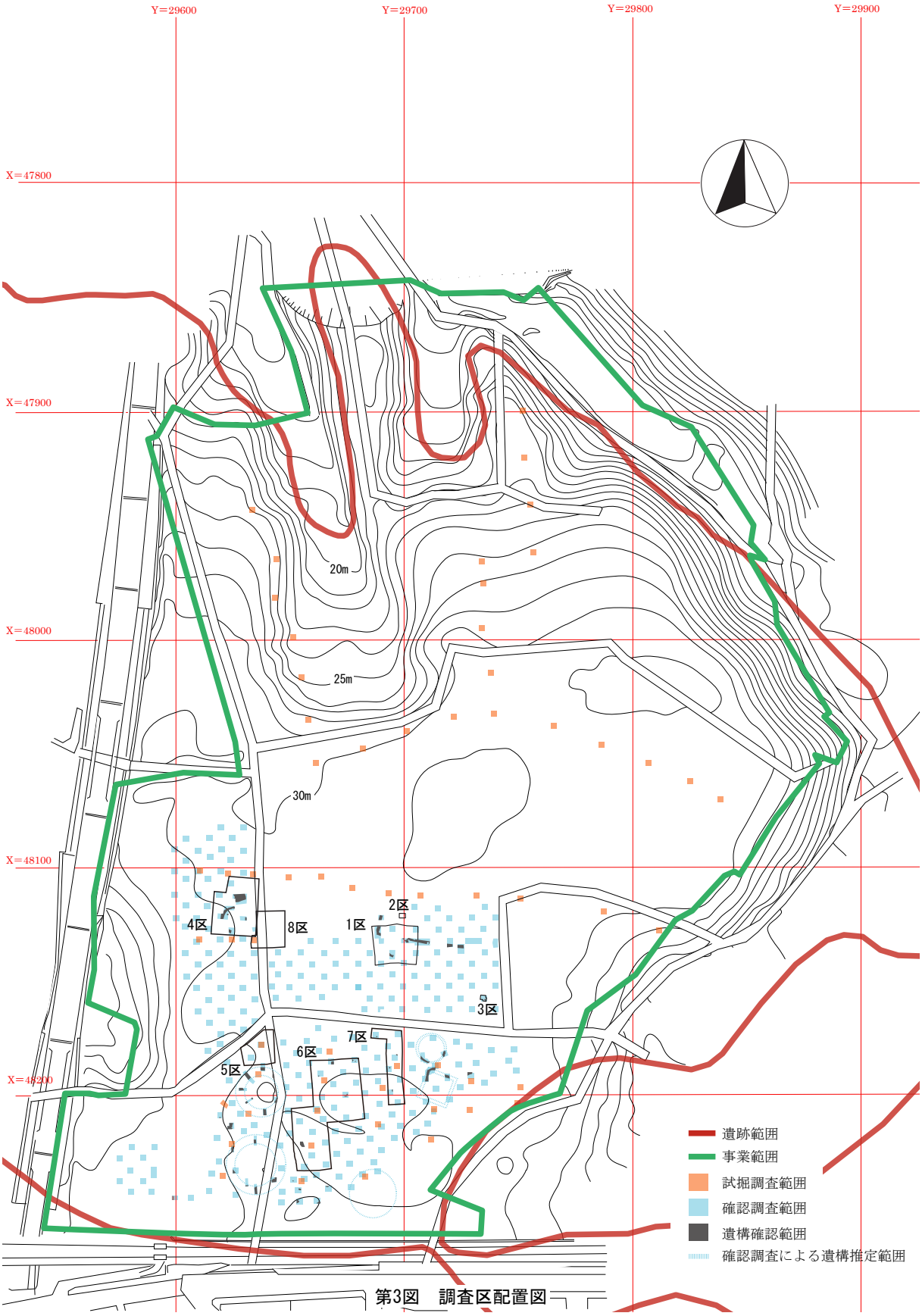
種ヶ谷津遺跡周辺には旧石器時代から奈良・平安時代までの遺跡が数多く存在する。旧石器時代の遺跡としては種ヶ谷津遺跡東側の台地上に位置する笹目沢遺跡からナイフ形石器が出土している。縄文時代の遺跡は、おゆみ野地区（千葉東南部ニュータウン）の開発にともない数多く調査された。中期には有吉北・南貝塚といった大型貝塚が形成され、後期の遺跡としても木戸作貝塚や小金沢貝塚があり、後～晩期の遺跡としては六通貝塚を挙げることができる。周辺にこのような大規模な遺跡が位置する一方で、種ヶ谷津遺跡近辺では縄文時代の遺構検出例は少ない。弥生時代の遺跡は希薄であり、小金沢古墳群やバクチ穴遺跡で弥生時代前期末葉～中期前葉の土器片が少量出土し、遺構としては有吉遺跡で弥生中期中葉～後葉の竪穴建物跡がわずかに検出されるに留まっている。古墳時代になると遺跡が増加する。特に後期に激増し他地域から入植があり開発が進んだと考えられている。笹目沢遺跡、大道遺跡、榎作遺跡で調査され、特に榎作遺跡は遺構の密度が非常に高い。奈良・平安時代の遺跡としては、おゆみ野地区に高沢遺跡など比較的規模の大きい遺跡があるが、近辺では大道遺跡や笹目沢遺跡で小規模集落が検出されるにとどまっている。中世以降は遺跡数は少なくなり、様相は不明瞭である。

1. 種ヶ谷津遺跡　2. 大道遺跡　3. 笹目沢遺跡　4. 谷津遺跡　5. 仁戸名遺跡　6. 榎作遺跡　7. 鎌取場台遺跡
8. 南二重堀遺跡　9. 高沢遺跡　10. 有吉遺跡　11. 上赤塚１号墳　12. 有吉南遺跡　13. 有吉城跡
14. 有吉北貝塚　15. 有吉南貝塚　16. 鎌取遺跡　17. 馬ノ口遺跡　18. 木戸作遺跡　19. 城ノ台遺跡
20. 椎名崎遺跡　21. 神門遺跡　22. 伯父名台遺跡　23. 今台遺跡　24. 小金沢古墳群　25. 六通遺跡
26. 六通貝塚　27. 六通金山遺跡　28. 御塚台遺跡　29. ムコアラク遺跡　30. 太田法師遺跡　31. 神明社裏遺跡
32. 大覚寺山古墳　33. 七廻塚古墳

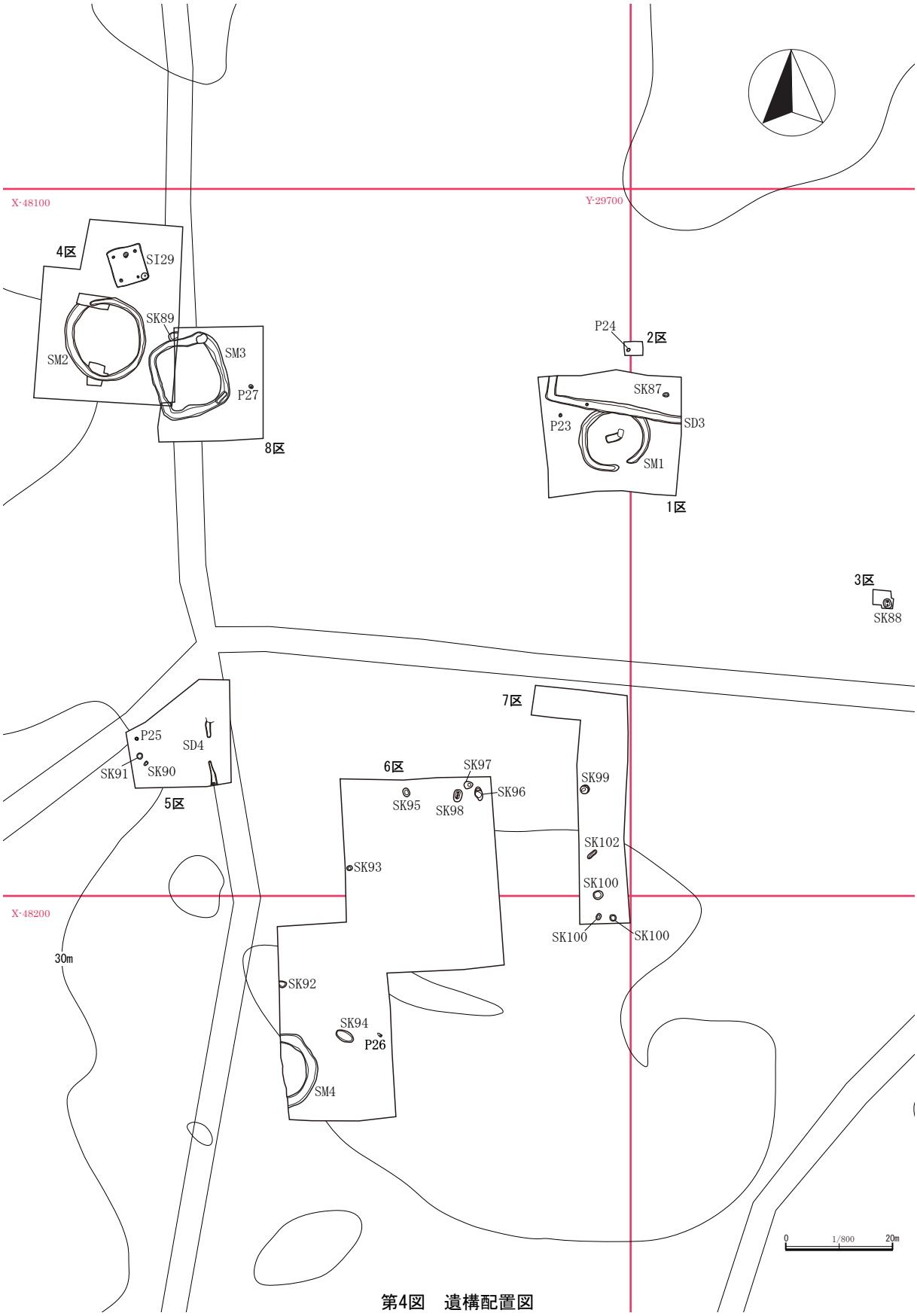
第１図　遺跡の位置と関連する周辺の遺跡



第２図　種ヶ谷津遺跡と周辺遺跡の調査歴


Y=29600
Y=29700
Y=29800
Y=29900
X=47800
X=47900
X=48000
X=48100
X=48200
20m
25m
30m
1区
2区
3区
4区
5区
6区
7区
8区
遺跡範囲
事業範囲
試掘調査範囲
確認調査範囲
遺構確認範囲
確認調査による遺構推定範囲

第3図　調査区配置図


X-48100
Y-29700
X-48200
4区
SI29
SK89
SM2
SM3
P27
8区
P24
2区
SK87
P23
SD3
SM1
1区
3区
SK88
7区
P25
SD4
SK91
SK90
5区
6区
SK97
SK95
SK98
SK96
SK99
SK102
SK100
SK100
SK100
SK93
30m
SK92
SK94
P26
SM4
0
1/800
20m

第4図　遺構配置図

２　過去の調査歴（第２図）

種ヶ谷津遺跡の発掘調査は、昭和 54・56 年度、昭和 58 年度、平成５・６年度、平成 10 年度、平成 30 年度におこなわれ、今回報告する令和３・４年度にかけておこなわれた調査で６・７回目となる。過去の調査では、旧石器時代の石器ブロックが検出され、縄文時代の遺構としては加曽利ＥⅡ式の竪穴建物跡や小竪穴が調査された。また、遺構はないが縄文時代前期～後期にかけての土器が出土している。平成 30 年度調査では明確な遺構は検出されなかったものの弥生時代前期末葉～中期前葉の土器片が出土し、東海地方の丸子式系や東北地方南部に出自のある土器が出土した。古墳時代以降の遺構検出例は多く、前期～中期に位置付けられる遺構も少数あるものの、中心となるのは後期以降であり、竪穴建物跡が多数調査された。後期の中でもやや時期差があり、TK47 ～ TK10 型式期（６世紀初頭～後半）までの時期幅がある。平成５・６年度におこなわれた台地縁辺部の調査では、奈良時代の土器集積遺構が検出され、約 100,000 点の夥しい土器類が出土しているが、台地上からは奈良・平安時代の遺構は全く検出されず、これらの大量の土器類はやや離れた場所から持ち込まれたことが分かっている。中世以降の遺構は希薄で、近世以降と考えられる溝状遺構などがわずかに検出されている。

３　調査・整理の方法（第３・４図）

調査区内に基準杭を設定し、遺構平面図作成と遺物の取り上げは、この杭を基準として行った。また､各調査区に通し番号を振った。なお､令和３年４月～令和４年６月にかけて実施した調査を第６次、令和５年１～３月にかけて実施した調査を第７次調査と呼称し、報告は年次で分けずに合わせて行う。遺構番号は平成 30 年度調査からの通し番号とした（第４図)。

第３章　検出した遺構と遺物

１　縄文時代（第１・２表・第５・６図）

（１）概要

縄文時代の土坑が６基検出され、そのうちの３基（88・98・104 号）は陥穴と考えられる。縄文早期～中期の土器と土製品が総計 43 点出土した。各遺構の遺物数は集計表（第１表）に記載した。

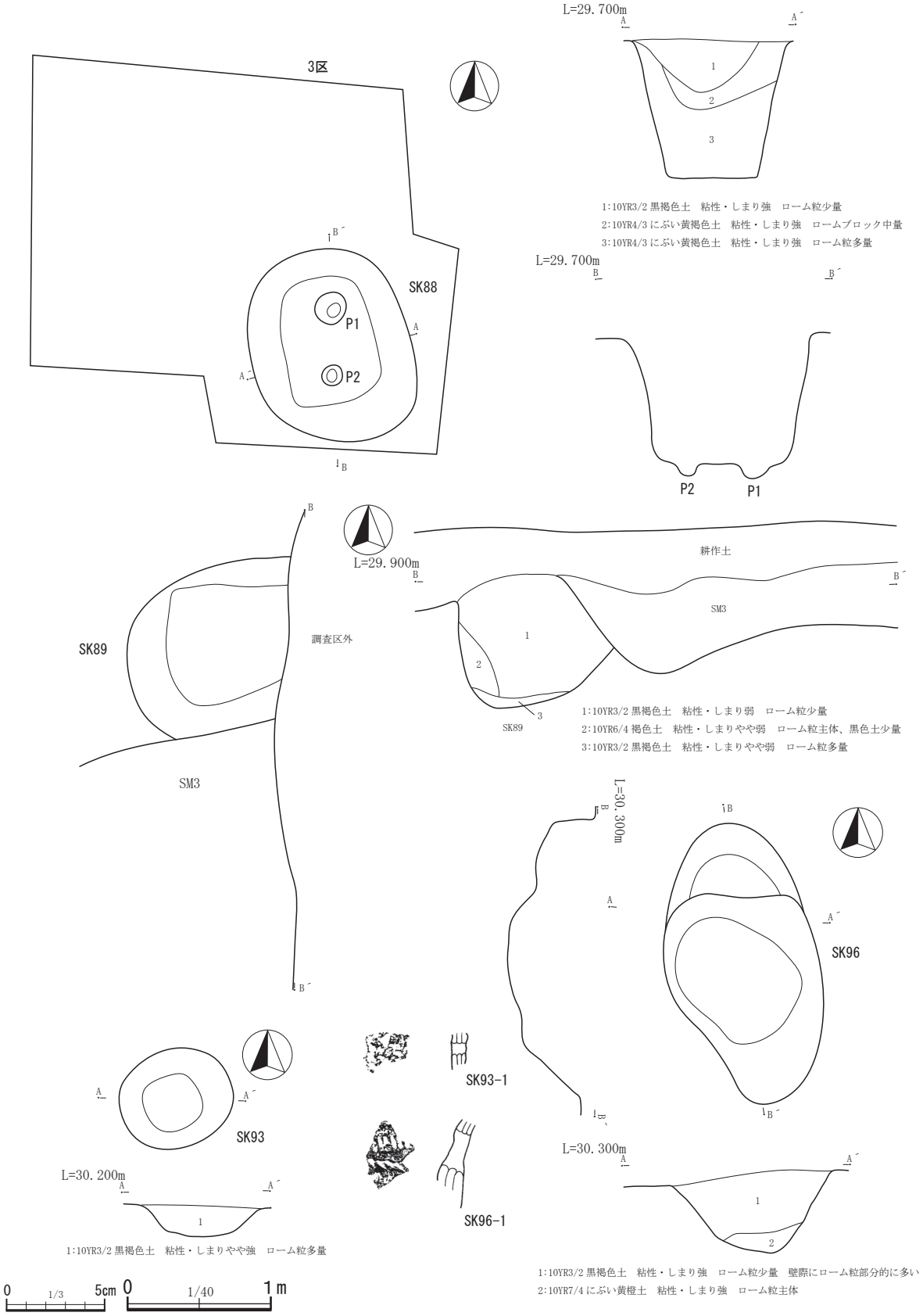
（２）土坑

第 88 号土坑（第５図）

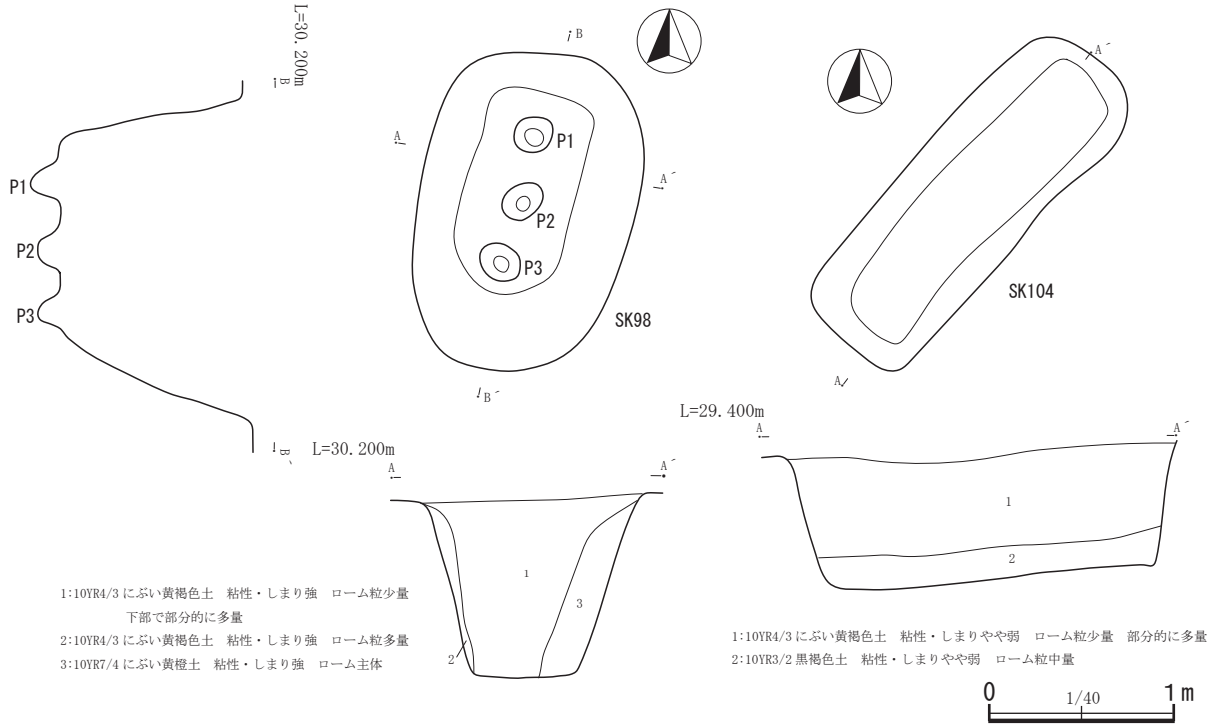
３区に位置する。重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸 1.34m、短軸 1.09m、深さ 0.92m。構造：底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。底面からピットが２基検出された。覆土：しまりが強く、下半はロームが多く混じり崩落土の可能性がある。自然堆積と考えられる。遺物：遺物の出土はなかった。時期：平面及び断面形態から縄文時代の楕円型陥穴と判断した。

第 89 号土坑（第５図）

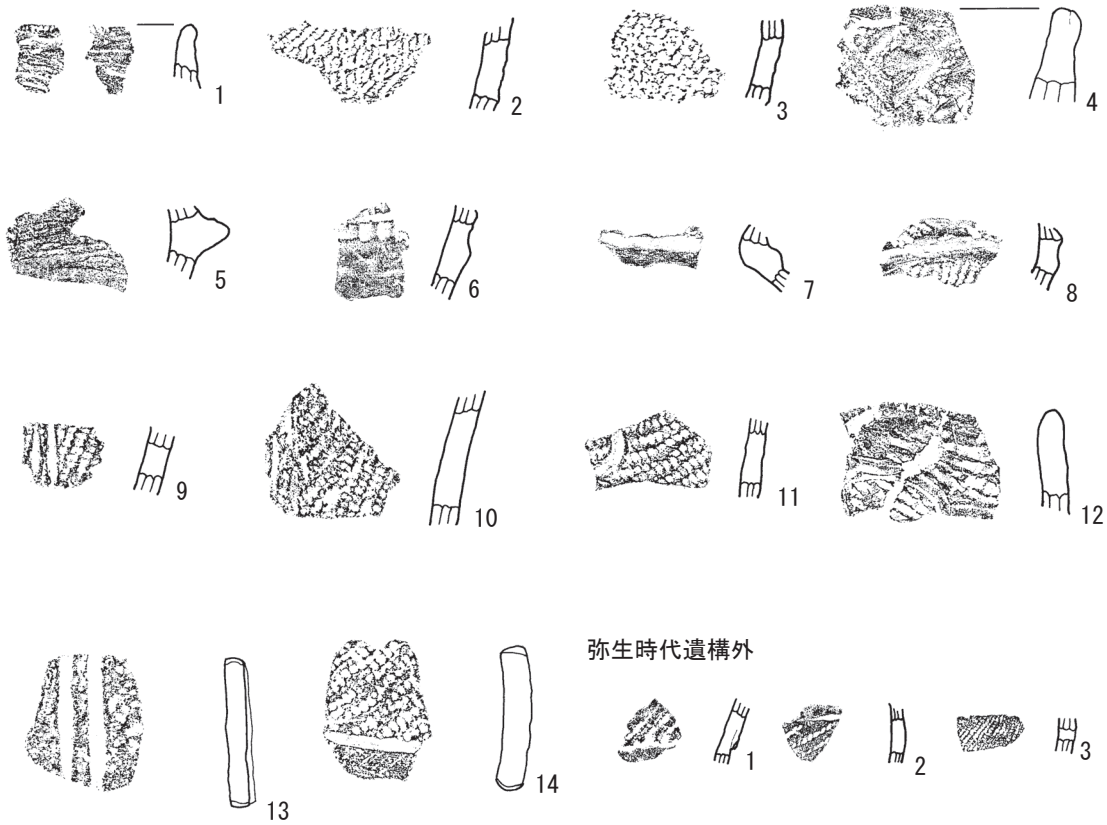
４区に位置する。重複関係：第３号墳と重複し、本遺構が古い。一部調査区外。平面形態：楕円形と考えられる。規模：長軸 1.12m、短軸〈1.10〉m、深さ 0.92m。構造：底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：古墳時代後期の土師器が僅かに出土したが流れ込みと考えられる。時期：切り合い関係と平面形態から縄文時代と判断した。



第５図　第 88・89・93・96 号土坑



縄文時代遺構外



弥生時代遺構外

第６図　第 98・104 号土坑、縄文時代遺構外、弥生時代遺構外

第93号土坑（第１・２表、第５図）

６区に位置する。重複関係:なし。平面形態:円形。規模:長軸0.77m、短軸0.68m、深さ0.21m。構造:底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：縄文時代前期前葉関山式の細片が出土。時期：出土遺物から縄文時代前期前葉の可能性がある。

第96号土坑（第１・２表、第５図）

６区に位置する。重複関係:なし。平面形態:不整楕円形。規模:長軸1.90m、短軸1.06m、深さ0.56m。構造:底面は中央付近がやや凹み、段差がある。壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:縄文時代中期前葉阿玉台式の細片が出土。時期:出土遺物から縄文時代中期前葉の可能性がある。

第98号土坑（第６図）

６区に位置する。重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸1.71m、短軸1.13m、深さ0.94m。構造：底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。底面からピットが３基検出された。覆土：しまりが強く、壁際はロームが多く混じり崩落土の可能性がある。自然堆積と考えられる。遺物：遺物の出土はなかった。時期：平面及び断面形態から縄文時代の楕円型陥穴と判断した。

第104号土坑（第６図）

８区に位置する。重複関係：第３号墳と重複し本遺構が古い。平面形態：隅丸長方形。規模：長軸2.00m、短軸0.71m、深さ0.65m。構造：底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：遺物の出土はなかった。時期：切り合い関係と平面形態から縄文時代の楕円型陥穴と判断した。

（３）遺構外出土遺物（第１・２表、第６図）

調査区内及び各遺構の覆土から縄文時代の土器が僅かに出土している。早期条痕文系、前期前葉関山式、中期前葉阿玉台式、中期中葉加曽利ＥⅠ～Ⅱ式までの時期幅がある。土器以外の遺物としては、加曽利ＥⅠ式・ＥⅡ式の土器片錘が各１点出土している。

２　弥生時代（第１・２表・第６図）

（１）概要

弥生時代の遺構は検出されなかったが、土器が僅かに検出された。総数は弥生後期の土器片３点である（第１表）。

（２）遺構外出土遺物（第１・２表、第６図）

調査区内及び遺構の覆土から弥生時代の土器が僅かに出土し、弥生後期後葉と考えられる。土器以外の遺物は出土していない。

３　古墳時代

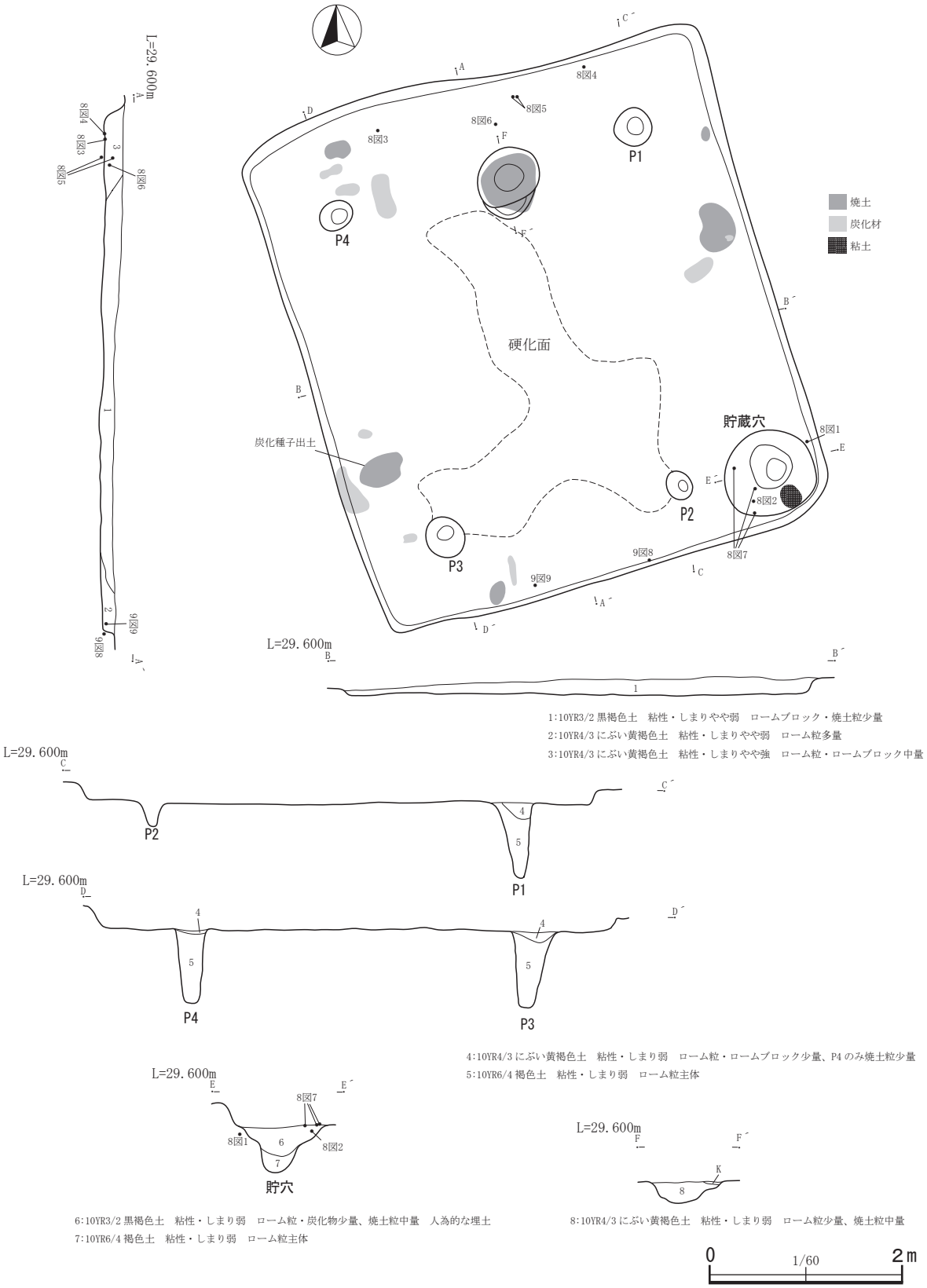
（１）概要

古墳時代中期の竪穴建物跡１軒、方墳１基、古墳時代後期の円墳３基が検出された。全体で古墳時代の土師器・須恵器・石製品などが441点出土した。各遺構の遺物数は集計表（第１表）に記載した。

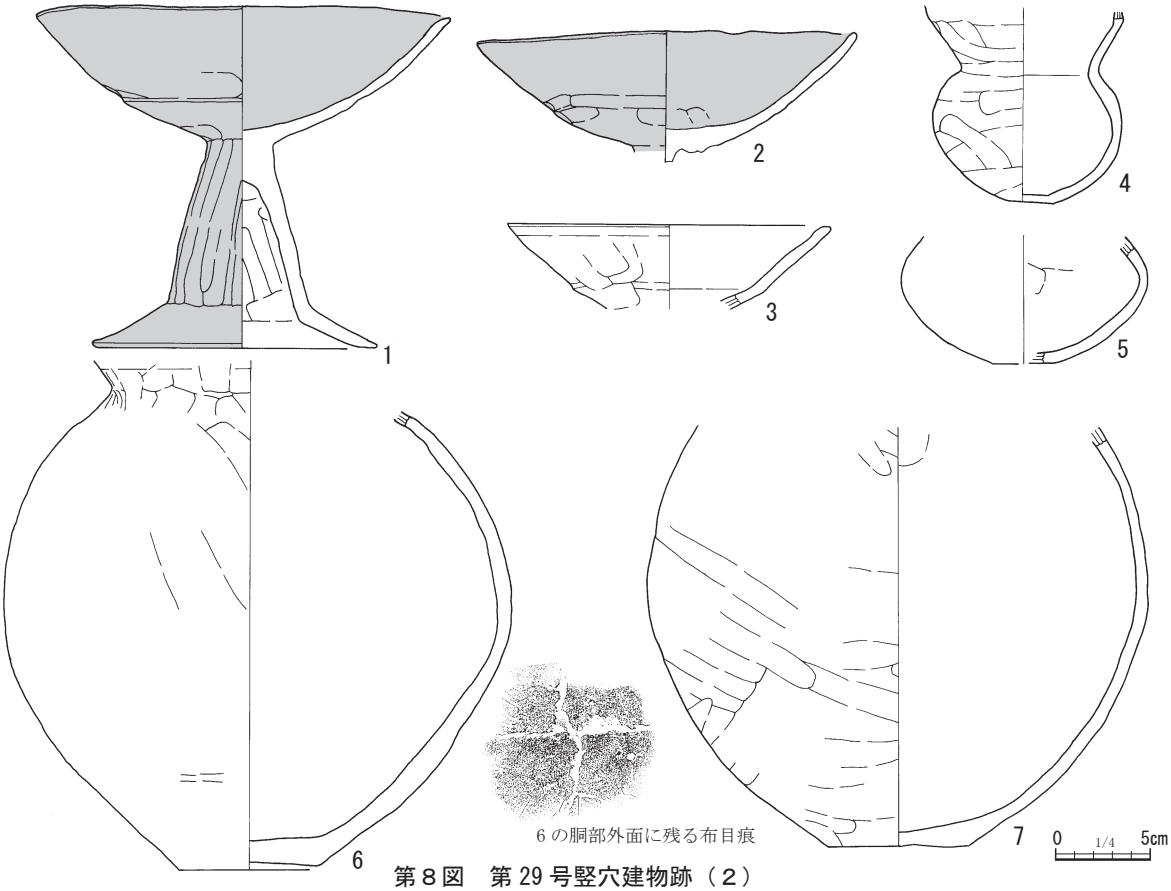
（２）竪穴建物跡

第29号竪穴建物跡（第１・２表、第７～９図）

４区に位置する。重複関係:なし。平面形態:隅丸方形と考えられる。規模:長軸5.30m、短軸4.75m、



第７図　第 29 号竪穴建物跡（１）



第８図　第 29 号竪穴建物跡（２）

深さ 0.20m。構造：底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。ソフトロームを床面としており、中央付近が部分的に硬化していた。壁溝は検出されなかった。炉が北壁側の柱穴間から検出された。明確な燃焼面はなく、あまり使い込まれていない。覆土:壁際や一部にロームブロックが多量に混じった層が確認され、一部は埋め戻していると思われるが、中央は自然堆積と考えられる。部分的に炭化材と焼土が検出されたが焼失住居とは考えにくく、一部の部材を廃棄して焼却したと考えられる。遺物：覆土からの遺物の出土はごく僅かだが、北壁際や貯蔵穴上から完形に近い土器が横倒しの状態で出土している。貯蔵穴上からは貯蔵穴が埋まった後に高坏や粘土などが廃棄されている。また、検出された焼土・炭化材総計 16 袋 38.6ℓを持ち帰り水洗選別した結果、焼土中から炭化種子が、炉の焼土内から臼玉１点が検出された。時期：出土した高坏や鉢の形態から古墳中期前葉 2a 期（小沢 2008）と考えられる。

（３）古墳

第１号墳（第１・２表、第９図）

１区に位置する円墳である。重複関係：第３号溝状遺構と重複し、本遺構が古い。平面形態：円形だが残存状態が悪く、周溝は全周しない。規模:径約 10.0m、深さ 0.23m。構造:周溝の断面形は皿状で、底面には高低差があり幅も一定ではない。中央付近から隅丸長方形の主体部が検出された。覆土：自然堆積と考えられる。主体部の覆土には若干の炭化物が混在していた。墳丘の盛土が崩落したような痕跡は認められない。遺物：遺物の出土はごく僅かで、僅かに須恵器甕の破片などが出土した。時期：出土遺物と平面形態から古墳時代後期と考えられる。

第２号墳（第１・２表、第 10・11 図）

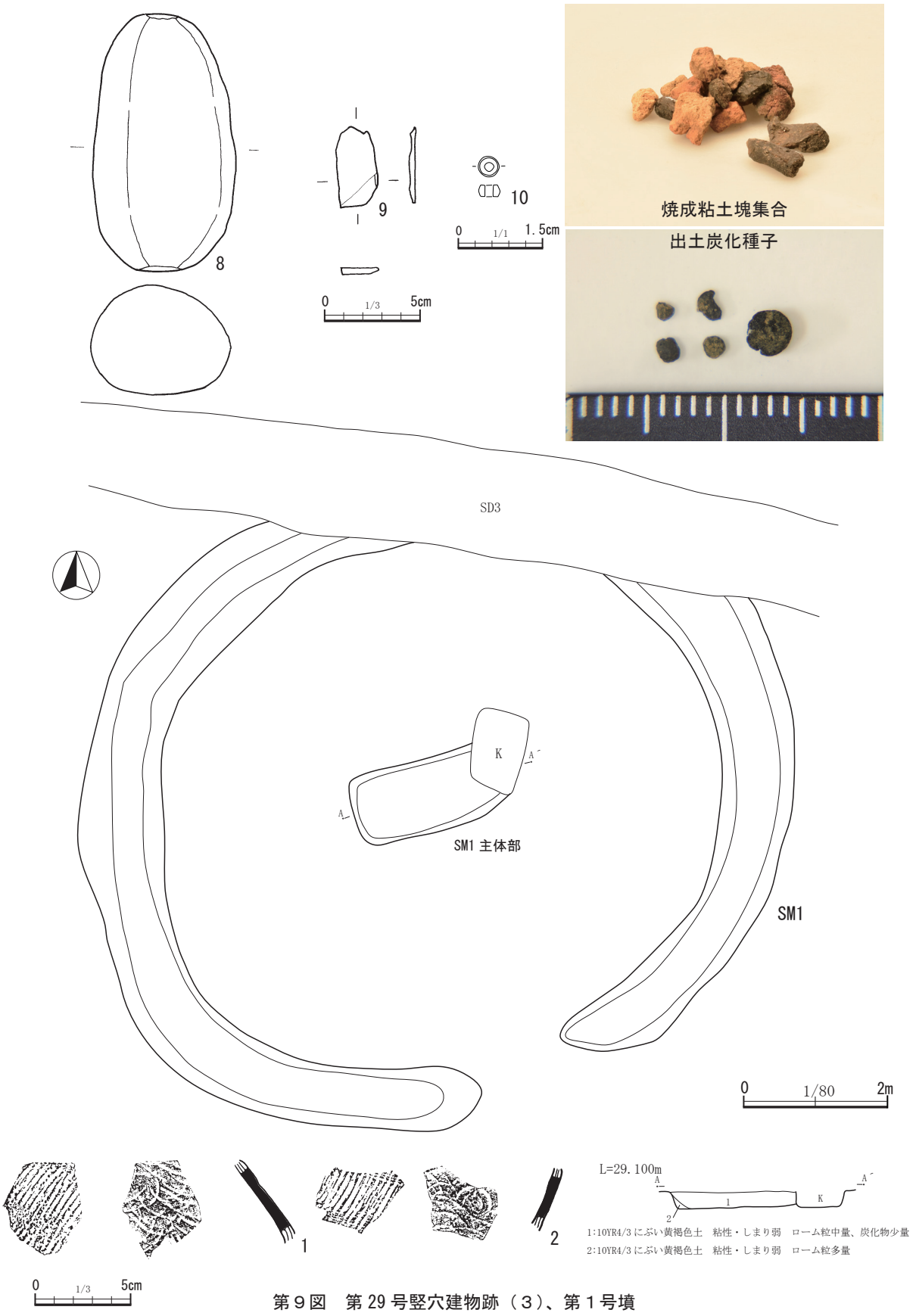
４区に位置する円墳である。重複関係：なし。平面形態：円形。確認調査時の削平により一部途切れている。規模：径約 11.2m、深さ 0.54m。構造：周溝の断面形は逆台形状となる。主体部は検出されなかった。覆土：自然堆積と考えられる。墳丘の盛土が崩落したような痕跡は認められない。遺物：覆土からの遺物の出土は少ない。周溝南東壁際と西側壁際の床面からやや浮いた状態で完形の土師器甕・坏が各１点出土している。本来墳丘上に置かれていたものが周溝の埋没過程で転落したものと考えられる。覆土からも破片が少量出土している。時期:出土した土師器坏と甕の形態から古墳時代後期、TK47 型式併行期（小沢 2008）と考えられる。

第３号墳（第１・２表、第 12・13 図）

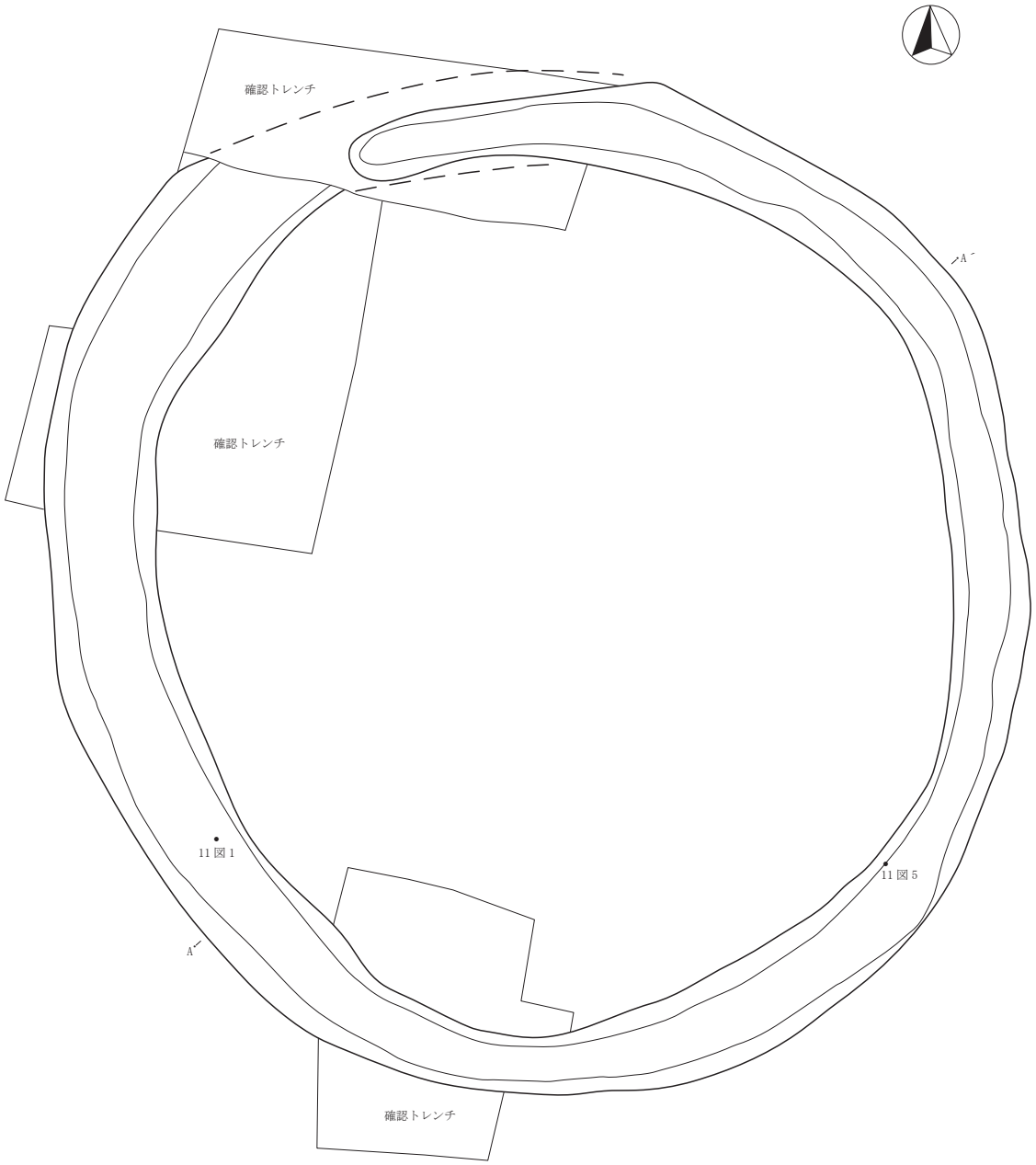
４・８区に位置する方墳である。重複関係:第 89･104 号土坑と重複し、本遺構が新しい。平面形態:方形。規模：長軸 11.2m、短軸 10.4m、深さ 0.60m。構造：周溝の断面形は場所により逆台形状や皿状となる。南東～東側は掘り込みが深く、壁も垂直に近く立ち上がる。その他は幅も広く断面皿状となる。主体部は検出されなかった。覆土：自然堆積と考えられる。墳丘の盛土が崩落したような痕跡は認められない。遺物：周溝東側壁際の覆土上～中層から完形の土師器鉢と石製紡錘車が 2 点出土した。本来墳丘上に置かれていたものが周溝の埋没過程で転落したものと考えられる。その他にも土師器の細片が少量出土している。時期：時期の絞り込みは難しいが、出土した土師器鉢の形態から古墳時代中期中葉３～４期（小沢 2008）と考えられる。

第４号墳（第１・２表、第 14 図）

６区に位置する円墳である。重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：円形と考えられる。規模：



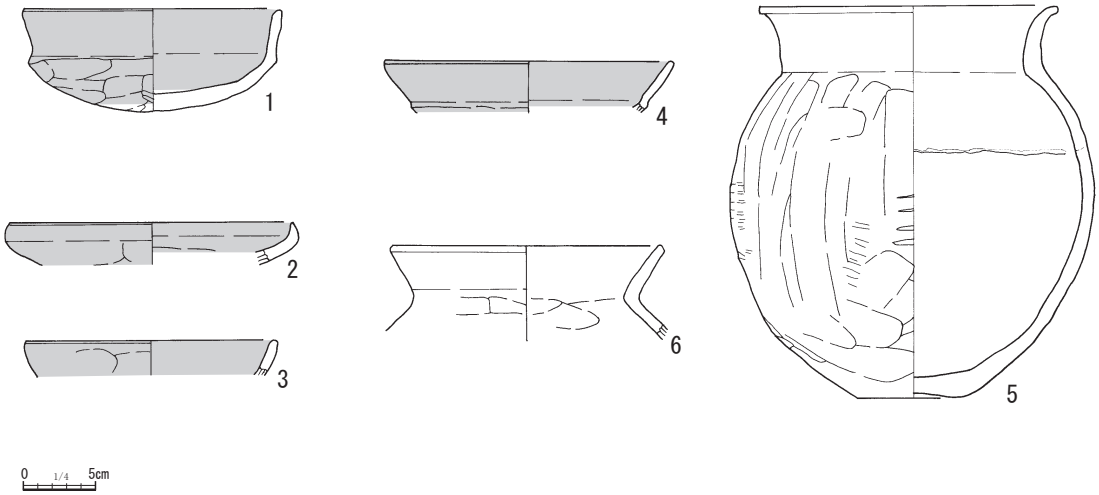
第９図　第 29 号竪穴建物跡（３）、第１号墳



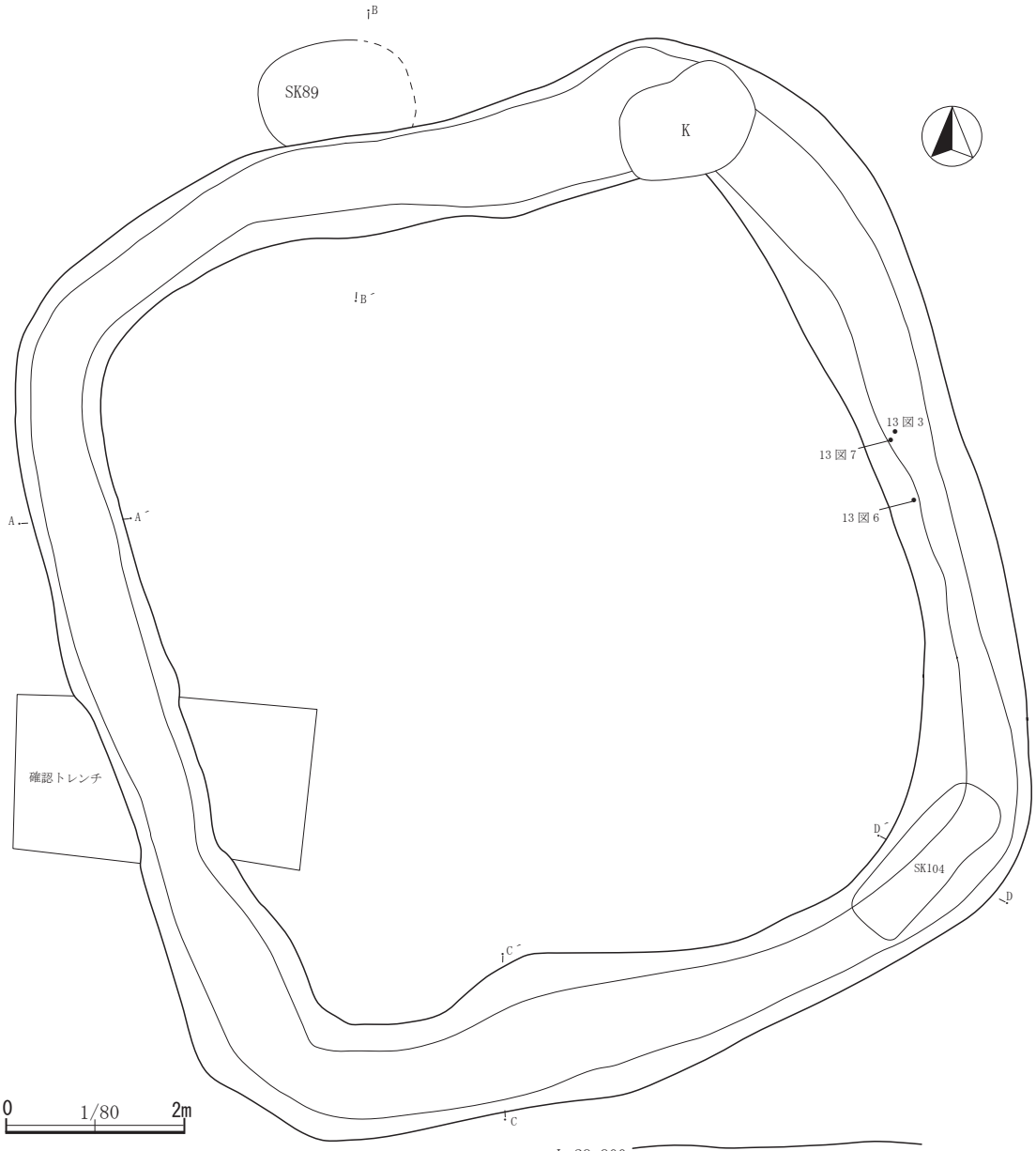
1:10YR3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒少量
2:10YR3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒中量
3:10YR3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒多量

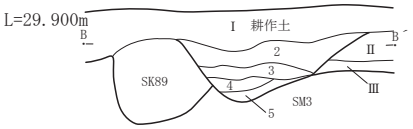
0　1/80　2m

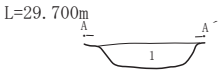
第 10 図　第２号墳（１）



第 11 図　第２号墳（２）

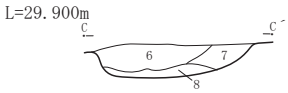


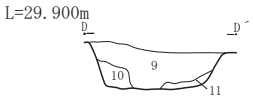




1:10YR3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒中量

2:10YR3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒少量
3:10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒多量
4:10YR6/4 褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒中量
5:10YR6/4 褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒主体

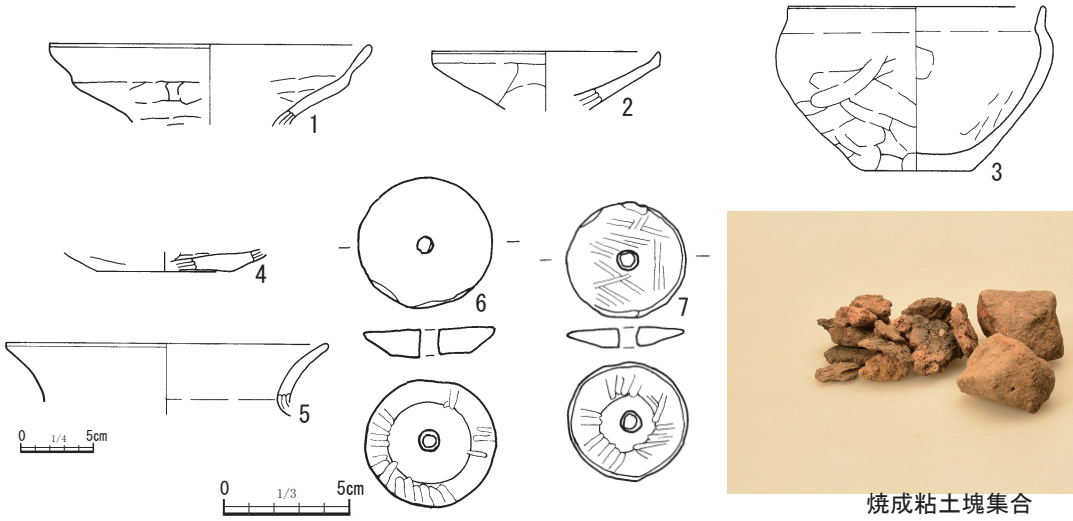




6:10YR3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒少量
7:10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒中量
8:10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒多量

9:10YR3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒中量、部分的に多量
10:10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性・しまりやや弱　ローム粒多量
11:10YR7/4 にぶい黄橙土　粘性・しまりやや弱　ローム主体　黒色土少量

第 12 図　第３号墳（１）



焼成粘土塊集合

第 13 図　第３号墳（２）

径約 10.4m、深さ 0.38m。構造:周溝の断面形は皿状で、底面には高低差がある。主体部は検出されなかった。覆土：自然堆積と考えられる。墳丘の盛土が崩落したような痕跡は認められない。遺物：縄文土器や古墳時代後期の土師器細片が僅かに出土した。時期：出土遺物と平面形態から古墳時代後期と考えられる。

（４）遺構外出土遺物（第１・２表、第 15 図）

本調査で検出されたのは竪穴建物跡１軒、方墳１基、円墳３基だが、調査区内から遺物が少量検出されている。遺物の総数は集計表（第１表）に記載した。

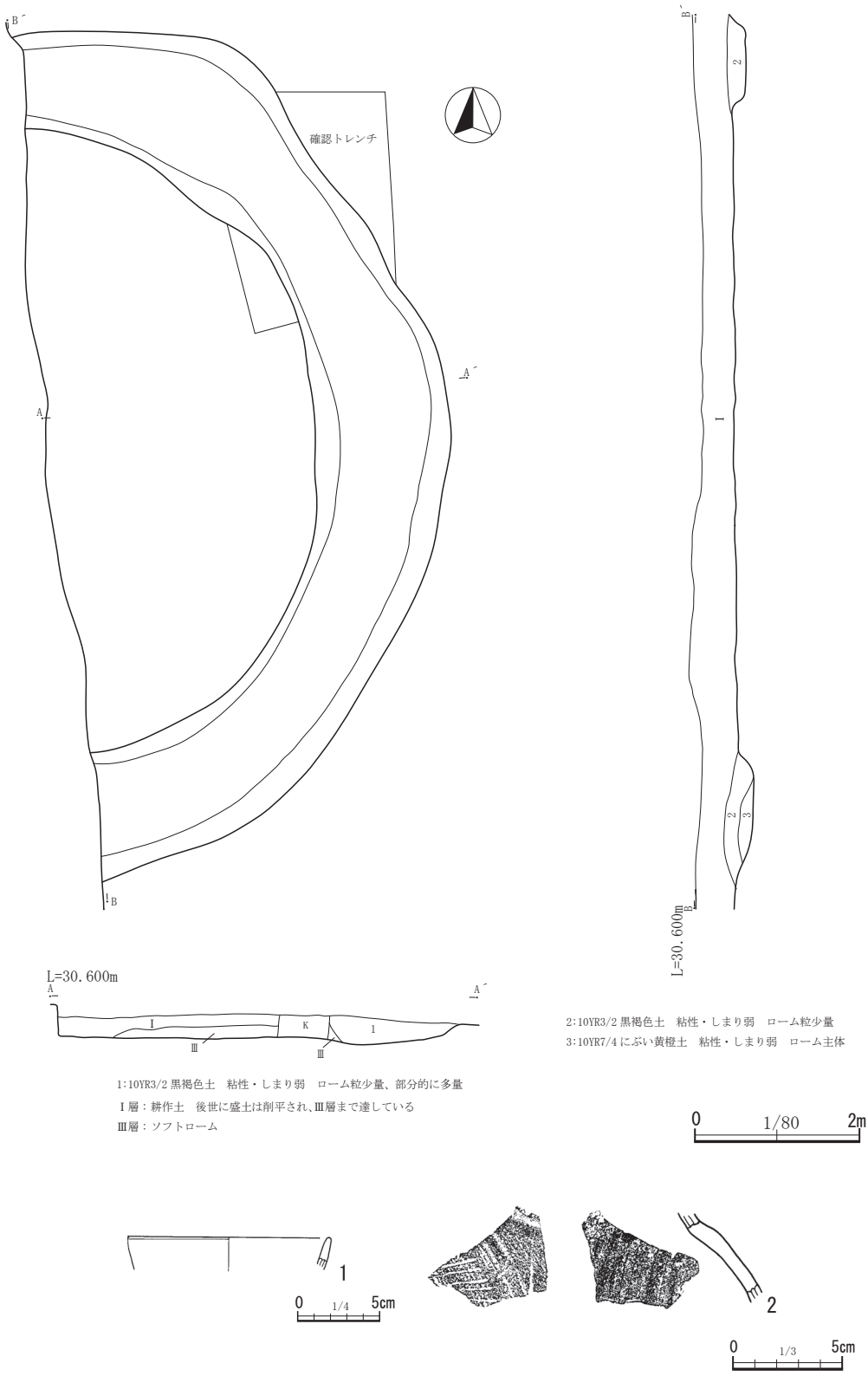
４　奈良・平安時代（第１・２表、第 15 図）

（１）概要

遺構は検出されなかったが、各遺構及び調査区から土器が僅かに出土し、総数は８点である（第１表）。

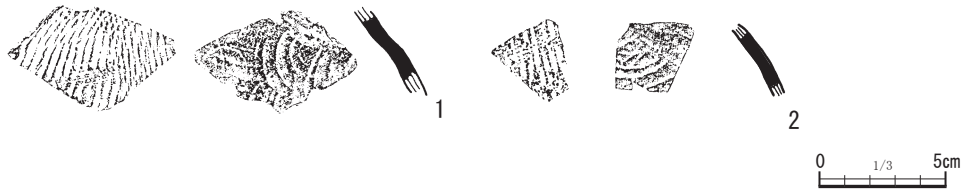
（２）遺構外出土遺物（第１・２表、第 15 図）

土師器の坏や甕が僅かに出土した。

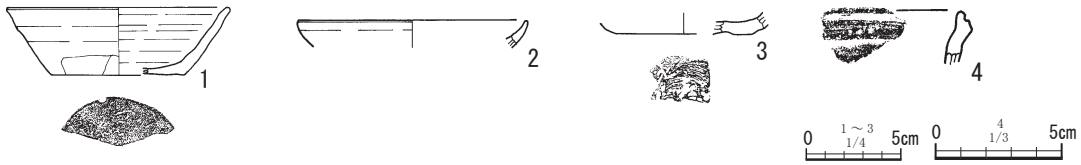

確認トレンチ
A
A´
B
B´
L=30.600m
I
K
1
Ⅲ
2
3
1:10YR3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　ローム粒少量、部分的に多量
Ⅰ層：耕作土　後世に盛土は削平され、Ⅲ層まで達している
Ⅲ層：ソフトローム
2:10YR3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　ローム粒少量
3:10YR7/4 にぶい黄橙土　粘性・しまり弱　ローム主体
0　1/80　2m
1
0　1/4　5cm
2
0　1/3　5cm

第 14 図　第４号墳

古墳時代遺構外



奈良・平安時代遺構外



第 15 図　古墳時代遺構外、奈良・平安時代遺構外

５　近世（第１・２表、第 16・17 図）

（１）概要

溝状遺構が２条検出された。遺物の総数は 28 点である（第１表）。

（２）溝状遺構

第３号溝状遺構（第１・２表、第 16 図）

１区に位置する。重複関係：第１号墳と重複し、本遺構が新しい。調査区外へ続く。平面形態：直線状を呈し調査区内で屈曲する。規模：調査区内で確認された範囲では 22.2 m、深さ 0.69m。構造：断面形は逆台形状となる。底面は若干の高低差があり、一部に柱穴状の掘り込みが確認できる。平面形から何かしらの施設を囲繞する施設の可能性が高い。硬化面などは確認されなかった。ソフトロームを床面とするが、部分的にハードロームまで掘り込んでいる。覆土：一部に焼土が混じるが、ロームブロックなどはなく、自然堆積の可能性が高い。遺物：覆土から僅かに陶磁器類や石製品が出土している。時期：出土した陶磁器類や砥石、遺構の形状及び覆土から近世以降と判断した。

第４号溝状遺構（第１・２表、第 17 図）

５区に位置する道跡である。重複関係：なし。調査区外へ続く。平面形態：直線状を呈し、後世の削平により中央付近は検出されなかった。規模:長さ 9.0 m、深さ 0.20m。構造:断面形は皿状となり、ごく浅い。一部に柱穴状の掘り込みが確認できる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:出土していない。時期：形状と現在の道とも重複することから近世以降と考えられる。

（２）遺構外出土遺物（第１・２表、第 17 図）

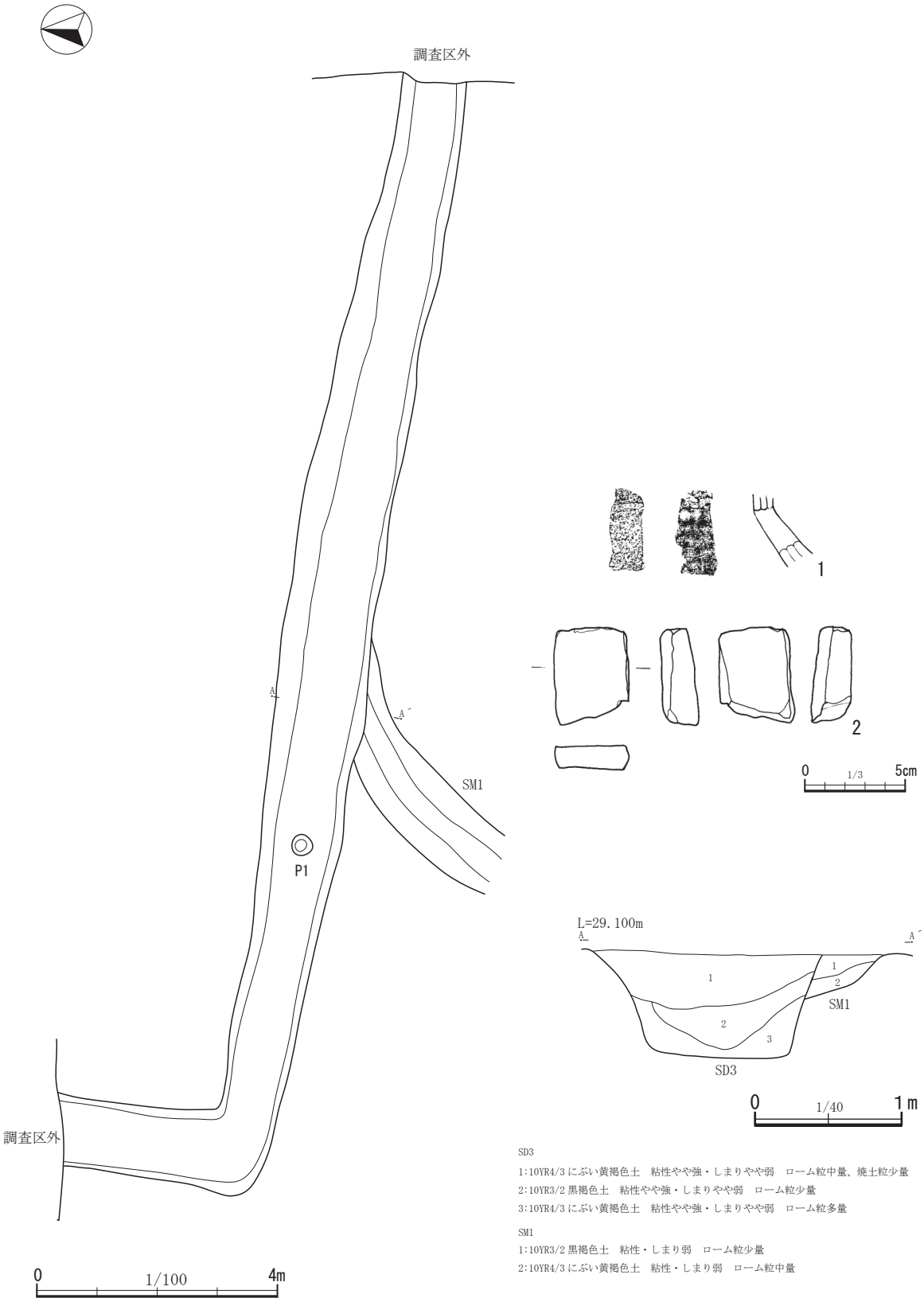
各遺構及び調査区から陶磁器類や石製品が少量出土している。遺物の総数は集計表（第１表）に記載した。

６　時期不明遺構（第 18・19 図）

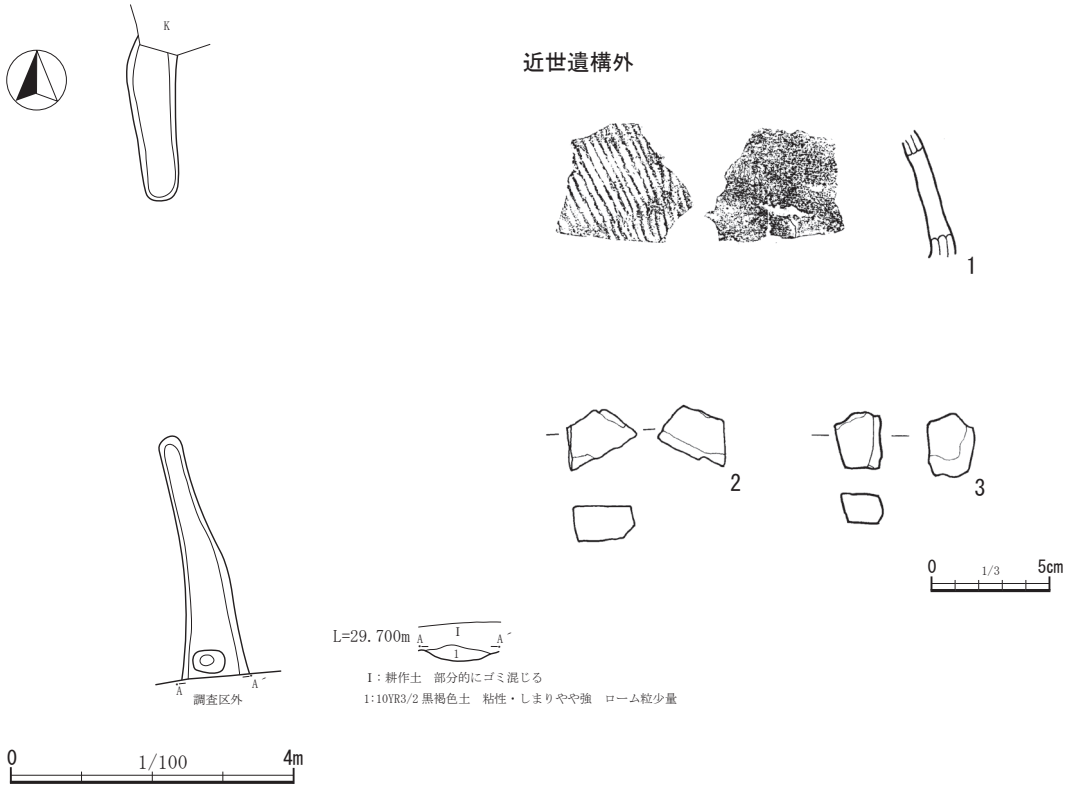
（１）概要

遺物の出土がなく、平面形などからも時期が特定できない遺構を時期不明遺構として報告する。

（２）土坑



第 16 図　第３号溝状遺構



第 17 図　第４号溝状遺構、近世遺構外

第 87 号土坑（第 18 図）

１区に位置する。重複関係:なし。平面形態:不整楕円形。規模:長軸 0.84m、短軸 0.57m、深さ 0.22m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 90 号土坑（第 18 図）

５区に位置する。重複関係:なし。平面形態:不整楕円形。規模:長軸 0.67m、短軸 0.40m、深さ 0.29m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：遺物の出土はなかった。時期：不明。

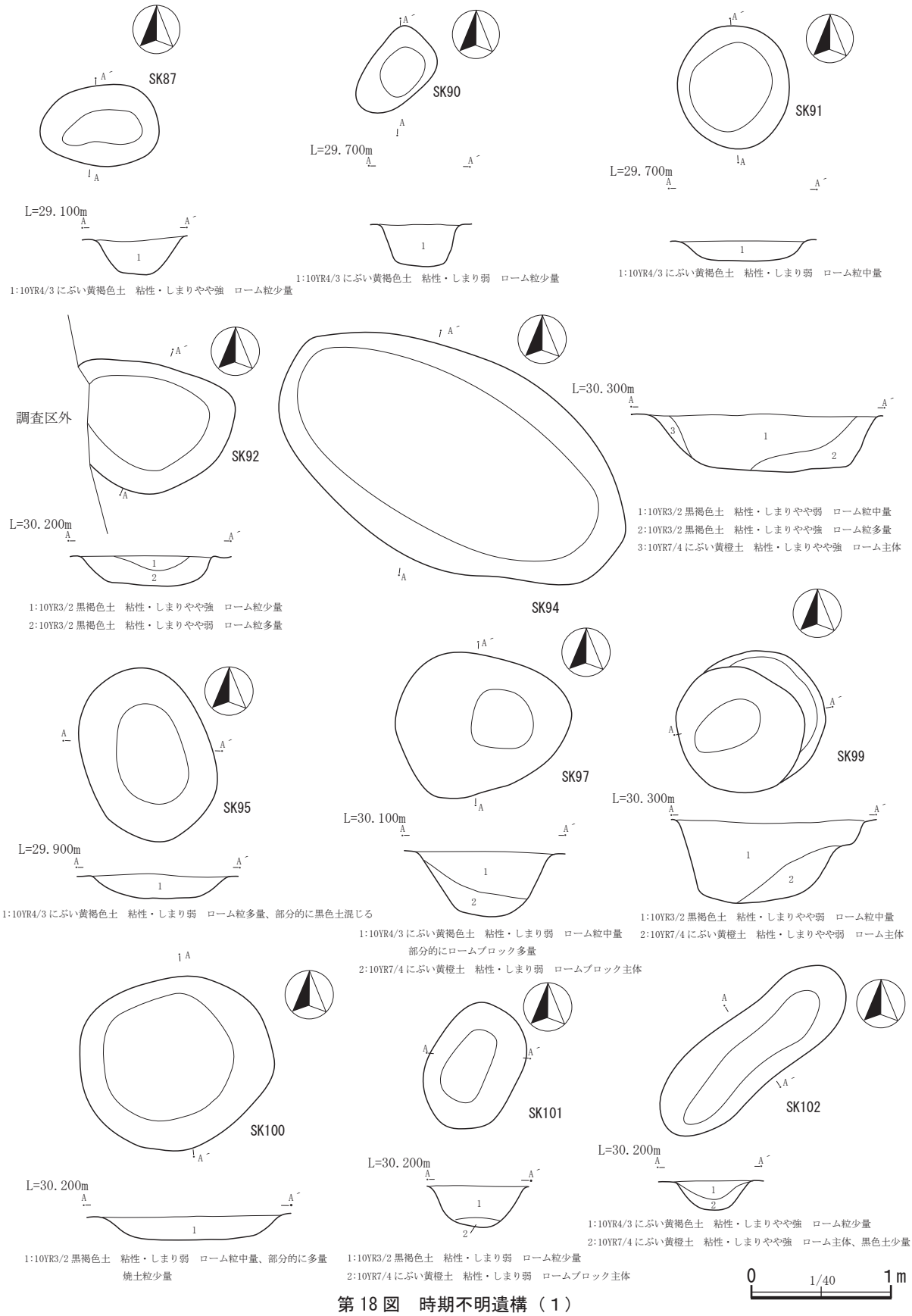
第 91 号土坑（第 18 図）

５区に位置する。重複関係:なし。平面形態:円形。規模:長軸 0.85m、短軸 0.79m、深さ 0.12m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

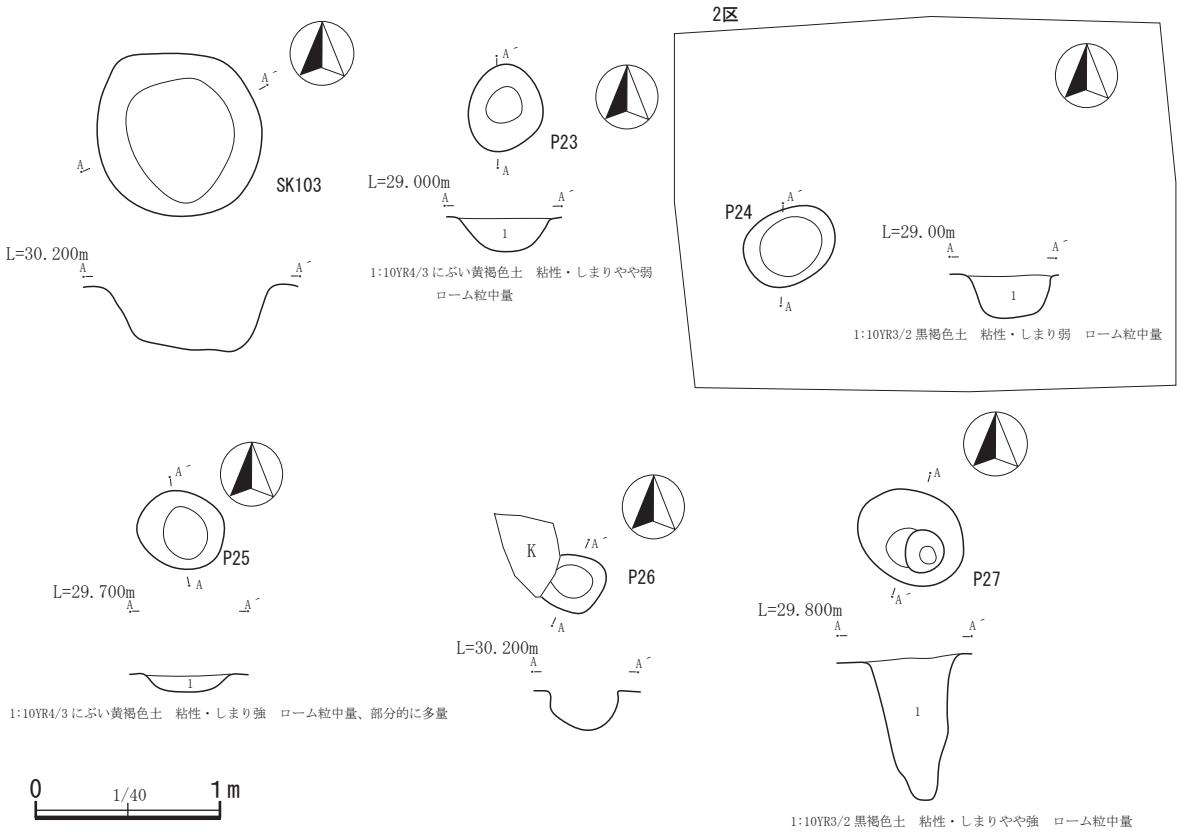
第 92 号土坑（第 18 図）

６区に位置する。重複関係:なし。平面形態:不整円形。規模:長軸 <1.02>m、短軸 0.92m、深さ 0.21m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：古墳時代後期の土師器甕細片が出土した。時期：不明。

第 94 号土坑（第 18 図・第１表）



第 18 図　時期不明遺構（1）



第 19 図　時期不明遺構（２）

６区に位置する。重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸 2.65m、短軸 1.50m、深さ 0.41m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：古墳時代後期の土師器甕細片が出土した。時期：不明。

第 95 号土坑（第 18 図）

６区に位置する。重複関係:なし。平面形態:楕円形。規模:長軸 1.23m、短軸 0.91m、深さ 0.15m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 97 号土坑（第 18 図）

６区に位置する。重複関係:なし。平面形態:不整円形。規模:長軸 1.26m、短軸 1.03m、深さ 0.45m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 99 号土坑（第 18 図）

７区に位置する。重複関係:なし。平面形態:円形。規模:長軸 1.04m、短軸 0.96m、深さ 0.53m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、東側で段となる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 100 号土坑（第 18 図）

７区に位置する。重複関係:なし。平面形態:円形。規模:長軸 1.35m、短軸 1.17m、深さ 0.15m。構造:

底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 101 号土坑（第 18 図）

7 区に位置する。重複関係:なし。平面形態:楕円形。規模:長軸 0.90m、短軸 0.63m、深さ 0.30m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 102 号土坑（第 18 図）

7 区に位置する。重複関係:なし。平面形態:細長い楕円形。規模:長軸 1.60m、短軸 0.50m、深さ 0.20m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 103 号土坑（第 19 図）

7 区に位置する。重複関係:なし。平面形態:円形。規模:長軸 0.95m、短軸 0.86m、深さ 0.39m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。遺物：遺物の出土はなかった。時期：不明。

（３）柱穴

第 23 号柱穴（第 19 図）

1 区に位置する。重複関係:なし。平面形態:円形。規模:長軸 0.45m、短軸 0.40m、深さ 0.17m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 24 号柱穴（第 19 図）

2 区に位置する。重複関係:なし。平面形態:円形。規模:長軸 0.50m、短軸 0.40m、深さ 0.21m。構造:底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 25 号柱穴（第 19 図）

5 区に位置する。重複関係:なし。平面形態:円形。規模:長軸 0.46m、短軸 0.42m、深さ 0.09m。構造:底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 26 号柱穴（第 19 図）

6 区に位置する。重複関係：なし。一部攪乱される。平面形態：円形。規模：長軸 0.30m、短軸〈0.29〉m、深さ 0.23 m。底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:遺物の出土はなかった。時期：不明。

第 27 号柱穴（第 19 図）

8 区に位置する。重複関係:なし。平面形態:円形。規模:長軸 0.59m、短軸 0.47m、深さ 0.74m。構造:底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がり、底面近くでやや段がある。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：遺物の出土はなかった。時期：不明。

第４章　まとめ

１　縄文時代

縄文時代の遺構としては土坑が６基検出され、そのうち３基は陥穴であった。陥穴の時期はいずれも判然としない。遺物の出土も少ないが、早期条痕文系～中期中葉加曽利ＥⅡ式期までの土器が断続的に出土している。最も多いのは加曽利ＥⅡ式期の土器片であり、第５次調査では同時期の遺構も検出されている。当遺跡は菱名貝塚、有吉北・南貝塚を中心とした２つの小単位集落群の境界に位置する中間域集落に位置付けられるが、中間域集落ではしばしば住居床面に遺物を廃棄し、土器片錘製作関連の遺物が出土することが指摘されている（西野 2008）。今回の調査では遺構は検出されず、遺物も少量であるものの土器片錘が出土している点は注目される。

２　弥生時代

弥生時代の遺構は検出されず、弥生時代後期後半（小林 2015）と考えられる土器片が僅かに出土した。周辺遺跡では弥生時代後期の調査例は皆無だが、第５次調査で検出された弥生時代前期末葉～中期前葉以降も生活域となった可能性がある。

３　古墳時代

竪穴建物跡１軒と方墳１基、円墳３基が調査された。そのうちの竪穴建物跡と方墳は古墳時代中期で、円墳はいずれも古墳時代後期と考えられる。古墳時代中期の第 29 号竪穴建物跡は小沢洋の編年によれば古墳時代中期前葉の 2a 期に位置付けられ、第３号墳は古墳時代中期中葉の３～４期に位置付けられる（小沢 2008）。両遺構はやや時期差があるものの、周囲には古墳時代中期の遺構はほぼ存在せず、第 29 号竪穴建物跡に伴う墓域が第３号墳であった可能性がある。古墳時代後期の円墳は遺物がほぼ出土していないことから時期比定が難しいが、遺存状態の良い遺物が出土した第２号墳は小沢の編年によれば TK47 型式併行期と考えられる。第５次調査では古墳時代後期の竪穴建物跡が多数検出されており、円墳と時期が重なることから、第５次調査で調査された集落に伴う古墳と考えて良い。また、第２・３号墳の周溝内の覆土からは墳丘から転落したような状態で土器や石製品が出土し、これらは本来墳丘に置かれていたものが転落した可能性が高く、当時の祭祀のあり方を示す一例と考えられる。

今回の調査では、古墳時代中～後期の集落域と墓域の位置関係や、古墳でおこなわれた祭祀を考える上で有用な情報を蓄積することができた。

４　奈良・平安時代

遺構は検出されなかったが、土器が僅かに出土している。第３次調査で台地縁辺部の祭祀遺構から大量の土器などが検出されたが、第５次調査と同様に今回の調査も古代の遺物は僅かであり、種ヶ谷津遺跡は奈良・平安時代の集落域ではなかったようである。したがって第３次調査で出土した大量の土器類は本遺跡外から持ち込まれたことが明確になった。

５　近世

中世以降の土地利用の痕跡は乏しい。今回の調査では近世と考えられる溝状遺構が２条検出された。第４号溝状遺構は現在の道と重複し、道跡と考えられる。第３号溝状遺構は掘り込みが深く、屈曲した形態から何かしらの施設を囲む機能を持つ可能性があるが、付属施設は検出されておらず性格は判

然としない。

参考文献

小沢洋 2008『房総古墳文化の研究』六一書房

栗本佳弘編 1979『千葉東南部ニュータウン７－木戸作遺跡（第２次）－』財団法人千葉県文化財センター

郷田良一ほか 1982『千葉東南部ニュータウン 10 －小金沢貝塚－』住宅･都市整備公団首都圏都市開発本部･財団法人千葉県文化財センター

小林清隆編 1989『千葉市種ヶ谷津遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』(『千葉県文化財センター調査報告』第 170 集) 千葉急行電鉄株式会社

小林清隆ほか 1992『千葉市榎作遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』(『千葉県文化財センター調査報告』第 216 集) 千葉急行電鉄株式会社

小林嵩 2015「下総の弥生時代後期土器編年」『千葉大学文学部考古学研究室　考古学論攷Ⅱ－柳澤清一先生退職とともに－』六一書房 pp. 211-232

小林嵩ほか 2020『千葉市種ヶ谷津遺跡（第５次）－廃棄物（木くず）中間処理施設の拡張工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』株式会社グリーンアース・公益財団法人千葉市教育振興財団

佐久間豊ほか編『千葉東南部ニュータウン 17 －高沢遺跡－』(『千葉県文化財センター調査報告』第 175 集) 住宅都市整備公団首都圏都市開発本部・財団法人千葉県文化財センター

佐藤順一ほか 2001『千葉市　榎作遺跡、種ヶ谷津遺跡、立堀城跡、高有遺跡、宮ノ後遺跡、谷当・上ノ台遺跡』千葉市教育委員会・財団法人千葉市文化財調査協会

島立桂ほか 2004『千葉東南部ニュータウン 29 －千葉市バクチ穴遺跡・大膳野南貝塚・有吉城跡２（旧石器時代）－』(『千葉県文化財センター調査報告』第 467 集) 都市基盤整備公団千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター

清藤一順ほか編 1985『千葉市種ヶ谷津遺跡　県道生実本納線道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』千葉県土木部道路建設課

関口達彦ほか 2005『千葉東南部ニュータウン 32 －千葉市小金沢古墳群２－』(『千葉県文化財センター調査報告』第 514 集) 独立行政法人都市再生機構千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター

立和名明美 1998『主要地方道生実・本納線埋蔵文化財調査報告書２　笹目沢遺跡・種ヶ谷津遺跡・大道遺跡』(『千葉県文化財センター調査報告』第 317 集) 千葉県道路公社・財団法人千葉県文化財センター

西野雅人 2007『千葉東南部ニュータウン 37 －千葉市六通貝塚－』(『千葉県教育振興財団調査報告』第 572 集) 独立行政法人都市再生機構千葉地域支社・財団法人千葉県教育振興財団

西野雅人 2008『千葉東南部ニュータウン 40 －千葉市有吉南貝塚－』(『千葉県教育振興財団調査報告』第 604 集) 独立行政法人都市再生機構千葉地域支社・財団法人千葉県教育振興財団

西野雅人 2008「縄文中期拠点集落の消滅と小規模集落」『千葉縄文研究』２　千葉縄文研究会　pp. 1-26

山田貴久ほか 1998『千葉東南部ニュータウン 19 －有吉北貝塚１（旧石器･縄文時代）－』(『千葉県文化財センター調査報告』第 324 集) 住宅・都市整備公団千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター

山田貴久ほか 1999『千葉東南部ニュータウン 21 －千葉市有吉遺跡（第４次）･高沢古墳群－』(『千葉県文化財センター調査報告』第 351 集) 住宅・都市整備公団千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター

第１表　出土遺物集計表

遺構名				建物跡		古墳								土坑												溝		調査区												総計
				29		1		2		3		4		89		90		91		92		93		94		96		3		1		4		5		6		7		8		
残存				個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	
縄文	土器	条痕文系	深鉢		3																												1									4
		関山式									1												1														7					9
		阿玉台式																									1								1		4					6
		加曽利E Ⅰ～Ⅱ式							2		3		1																1										1		3	11
		縄文のみ									2		2																		1								1		2	8
		無文																											1								1				1	3
	土製品	土器片錘																												1						1						2
弥生	土器	後期	甕				1																														2					3
古墳中期	土師器	坏			10						13																															23
		高坏		1	30						7																															38
		器台									1																															1
		鉢		1	29					1	2																															33
		甕		1	103						55																														1	159
	石製品	紡錘車								2																																2
		磨石類		1																																						1
		砥石			4																																					4
		臼玉		1																																						1
	焼成粘土塊			17						20																																37
古墳後期	土師器	坏						1	7				3		2																3						1					17
		高坏							6																								1									7
		甕					2	1	95				1		2						1				1						2											105
	須恵器	甕					2																								10											12
		壺・瓶類											2																													2
古代	土師器	坏																													1						2					3
		甕																																			4					4
近世	土器	鉢							1		1		1																1								5					9
	陶磁器	碗・鉢類							1		3																		2								6					12
		甕																																					1			1
	石製品	砥石						1																				1								4						6
礫				2				2																				1								6		4				15
時期不明土器					1		6		2		28						1		1																3		8		3			53
鉄滓																																		1								1
総計				24	180		11	5	114	23	116		10		4		1		1		1		1		1		1	2	5	1	17		2	1	4	11	40	4	6		7	592

第２表　出土遺物観察表

第93号土坑

1	縄文土器 深鉢	－ － 〈1.7〉	胴部片。内面ナデ。外面組紐文。胎土に繊維含む。関山式。	白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好

第96号土坑

1	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.4〉	胴部片。内面剥落。外面刺突が2列確認される。阿玉台式。	礫・石英・金雲母中量。	外面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/4	良好

縄文時代遺構外

1	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.5〉	口縁部片。内面条痕文、外面擦痕文。胎土に繊維含む。早期条痕文系。4区出土。	白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
2	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.7〉	胴部片。内面ナデ。外面環付末端単節LR。胎土に繊維含む。関山式。6区出土。	白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
3	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.4〉	胴部片。内面ナデ。外面組紐文。胎土に繊維含む。関山式。6区出土。	石英・白色粒微量。	外面：10YR2/3 内面：7.5YR5/4	良好
4	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.8〉	口縁部片。内面ナデ。外面口唇直下に横方向と斜め方向の隆帯が確認できる。隆帯上に縄文RL施文。阿玉台式。6区出土。	石英・白色粒中量。	外面：10YR3/3 内面：7.5YR5/4	良好
5	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.0〉	胴部片。内面剥落。外面隆帯上部に押引文を沿わせる。阿玉台式。5区出土。	石英・白色粒中量。	外面：5YR4/3 内面：7.5YR4/3	良好
6	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.6〉	胴部片。内面ナデ。外面隆帯と沈線間に押引文。阿玉台式。6区出土。	礫・石英・白色粒中量。	外面：5YR4/4 内面：7.5YR4/3	良好
7	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.6〉	胴部片。内面ミガキ。外面沈線による弧状の文様が描出される。加曽利EⅡ式。SD3出土。	礫・石英・白色粒少量。	外面：5YR6/6 内面：7.5YR5/4	良好
8	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.4〉	胴部片。内面ナデ。外面沈線を沿わせた隆帯で弧状の文様を描出。下部は縄文施文（原体単節LR）。加曽利EⅡ式。SM2出土。	石英・白色粒少量。	外面：10YR6/4 内面：7.5YR5/4	良好
9	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.6〉	胴部片。内面ナデ。外面磨消縄文（原体単節RL）。加曽利EⅡ式。8区出土。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/3	良好
10	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.4〉	胴部片。内面ナデ。外面磨消縄文（原体単節LR）。加曽利EⅡ式。8区出土。	礫微量、石英・白色粒多量。	外面：5YR5/6 内面：10YR4/1	良好
11	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.1〉	胴部片。内面ナデ。外面縄文（原体単節RL）と弧状の沈線が確認される。加曽利EⅡ式。SM4出土。	礫・石英・白色粒少量。	外面：5YR4/3 内面：7.5YR5/4	良好
12	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.2〉	口縁部片。内面ケズリ。外面縄文（無節R）の後、半截竹管により弧状の文様を施文。波状口縁。加曽利EⅡ式か。7区出土。	石英・白色粒少量、赤褐色粒中量。	外面：10YR4/1 内面：10YR4/1	良好
13	土製品 土器片錘	長さ5.7cm、幅4.2cm、厚さ0.9cm、重量30.1g。加曽利EⅠ式。1区出土。			外面：5YR4/6 内面：7.5YR5/4	良好
14	土製品 土器片錘	長さ5.4cm、幅4.3cm、厚さ1.1cm、重量35.5g。加曽利EⅡ式。6区出土。			外面：10YR7/4 内面：7.5YR6/4	良好

弥生時代遺構外

1	弥生土器 甕	－ － 〈2.8〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部外面附加条1種縄文（LR）。複合口縁。弥生時代後期後葉。6区出土。	石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/3	良好
2	弥生土器 甕	－ － 〈2.4〉	胴部片。内面ナデ。外面は附加条1種縄文（LR）を沈線で区画する。弥生時代後期。6区出土。	石英・白色粒少量。	外面：5Y3/1 内面：7.5YR5/6	良好
3	弥生土器 甕	－ － 〈1.2〉	胴部片。内面ナデ。外面縄文（原体単節LR）。弥生時代後期。SM1出土。	礫微量、石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：5YR5/6	良好

第29号竪穴建物跡

1	土師器 高坏	21.4 14.7 17.9	完形。坏部内外面ナデ。脚部外面ヘラケズリ後ナデ。脚裾部内外面ナデ。脚内部ヘラケズリ。脚部内面以外赤彩。	礫少量、石英・白色粒中量。	外面：2.5YR4/8 内面：2.5YR4/8	良好
2	土師器 高坏	19.8 － 〈6.8〉	坏部ほぼ残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面一部剥落。内外面赤彩。	礫微量、石英・白色粒少量。	外面：2.5YR4/5 内面：2.5YR4/5	良好
3	土師器 高坏	(17.0) － 〈4.3〉	坏部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒中量。	外面：10YR3/2 内面：7.5YR4/3	良好

4	土師器 鉢	– 2.4 〈9.8〉	4/5残存。内面ナデ。口縁部外面ヨコナデ、下半ヘラケズリ後ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	赤褐色粒・礫少量、石英・白色粒中量。	外面：5YR4/4 内面：5YR4/4	良好
5	土師器 鉢	– (3.2) 〈6.6〉	1/3残存。内外面ナデ。外面上端にスス付着。	赤褐色粒・礫少量、石英・白色粒中量。	外面：5YR4/4 内面：10YR3/1	良好
6	土師器 甕	– 7.4 〈26.7〉	4/5残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面ヨコナデ、外面下端ヘラケズリ。外面～底部ヘラケズリ後ナデ。外面に一部布目痕残る。	赤褐色粒・礫微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR5/4 内面：5YR4/6	良好
7	土師器 甕	– 7.4 〈21.7〉	1/4残存。内面ナデ。外面～底部ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。	礫少量、石英・白色粒多量。	外面：2.5YR3/6 内面：7.5YR2/1	良好
8	石製品 磨石類	完形。長さ13.0cm、幅7.0cm、厚さ5.7cm、重量798.7g。上端に敲打痕、下端は磨石として利用。				
9	石製品 砥石	破片。長さ4.2cm、幅1.9cm、厚さ0.3cm、重量4.0g。破片のため判断が難しいが、側面及び上面を使用面とした砥石と判断した。				
10	石製品 臼玉	完形。径0.3cm、厚さ0.2cm、重量0.1g。全体的に丁寧に研磨される。				
第１号墳						
1	須恵器 甕	- – 〈4.4〉	体部片。内面当て具痕残る。外面平行タタキ。外面自然釉付着。	礫少量。	外面：10YR6/3 内面：10Y4/1	良好
2	須恵器 甕	- – 〈3.4〉	体部片。内面当て具痕残る。外面平行タタキ。	礫少量。	外面：N3/ 内面：7.5Y5/1	良好
第２号墳						
1	土師器 坏	13.8 – 5.4	完形。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面下端～外面下端赤彩。	礫少量、石英・白色粒中量。	外面：2.5YR4/6 内面：2.5YR4/6	良好
2	土師器 坏	(15.0) – 〈2.2〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/4 内面：5YR4/6	良好
3	土師器 坏	(13.0) – 〈1.9〉	口縁部片。内外面ナデ。内外面赤彩。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
4	土師器 坏	(7.5) – 〈2.7〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
5	土師器 甕	15.5 5.6 20.8	完形。内面ナデ、一部輪積痕が残る。口縁部内外面ヨコナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。乾燥した状態で整形したとみられ、一部ケズリ痕が途切れ途切れになる。外面火襷。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR6/4	良好
6	土師器 甕	(14.0) – 〈4.9〉	口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
第３号墳						
1	土師器 高坏	(17.0) – 〈4.2〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	礫・石英少量、白色粒中量。	外面：2.5YR4/6 内面：2.5YR4/6	良好
2	土師器 器台か	(12.0) – 〈3.0〉	口縁部片。内外面ナデ。	礫少量、石英・白色粒中量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
3	土師器 鉢	13.6 5.6 8.6	ほぼ完形。内面ヘラナデ後ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ナデ、下端及び底部ヘラケズリ。	石英微量、白色粒中量、礫多量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
4	土師器 鉢	– (7.0) 1.1	底部片。内外面ナデ。底部ヘラケズリ後ナデ。	白色粒・石英少量。	外面：7.5YR5/4 内面：10YR6/4	良好
5	土師器 甕	(17.0) – 〈3.7〉	口縁部片。内外面ヨコナデ。	白色粒・石英少量。	外面：10YR3/1 内面：10YR5/3	良好
6	石製品 紡錘車	完形。径5.0cm、厚さ0.9cm、重量40.8g。全体的に良く研磨され、下面は金属器による加工痕が観察される。上面の欠損部は研磨されている。				
7	石製品 紡錘車	完形。径4.6cm、厚さ0.7cm、重量21.4g。全体的に良く研磨され、上面は擦痕が顕著で、下面は金属器による加工痕が観察される。上面の欠損部は研磨されている。				
第４号墳						
1	土師器 坏	(12.0) – 〈1.9〉	口縁部片。内外面ヨコナデ。内外面赤彩。	礫微量、白色粒中量。	外面：2.5YR4/4 内面：2.5YR4/4	良好
2	須恵器 壺・瓶類	- – 〈4.0〉	体部片。内外面ロクロナデ。外面に刻みが施される。	礫微量、白色粒少量。	外面：5Y6/1 内面：5Y6/1	良好
古墳時代遺構外						

1	須恵器 甕	- – 〈3.3〉	体部片。内面当て具痕残る。外面平行タタキ。外面自然釉付着。1区出土。	精良。	外面：5Y6/3 内面：5Y6/2	良好
2	須恵器 甕	- – 〈2.9〉	体部片。内面当て具痕残る。外面平行タタキ。外面自然釉付着。1区出土。	白色粒微量。	外面：5Y6/3 内面：5Y5/1	良好
古代遺構外						
1	土師器 坏	(11.4) (7.0) 3.5	1/8残存。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。1区出土。	石英・白色粒少量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
2	土師器 坏	(12.0) – 〈1.4〉	口縁部片。内外面ヨコナデ。6区出土。	白色粒微量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
3	土師器 坏	– (8.2) 〈1.1〉	底部片。内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。6区出土。	石英・白色粒微量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/3	良好
4	土師器 甕	- – 〈2.4〉	口縁部片。内外面ロクロナデ。6区出土。	石英・白色粒微量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
第３号溝状遺構						
1	陶磁器類 鉢	- – 〈3.7〉	体部片。内外面ロクロナデ。	白色粒微量。	外面：7.5YR4/1 内面：2.5YR4/1	良好
2	石製品 砥石	長さ4.6cm、幅3.4cm、厚さ1.4cm、重量39.2g。上面と右側縁に使用面が確認される。				
近世遺構外						
1	陶磁器類 甕	- – 〈5.3〉	体部片。内面ナデ。外面平行タタキ。7区出土。	精良。	外面：5YR4/3 内面：2.5YR5/2	良好
2	石製品 砥石	破片。長さ1.7、幅2.7cm、厚さ1.6cm、重量10.0g。左側面と下面に使用面が確認される。6区出土。				
3	石製品 砥石	破片。長さ2.2cm、幅1.6cm、厚さ1.4cm、重量8.1g。上下及び左側縁に使用面が確認される。6区出土。				

第88号土坑全景（北東から）

第89号土坑全景（西から）

第93号土坑全景（南から）

第96号土坑全景（南から）

第98号土坑全景（南から）

第104号土坑全景（南西から）

第29号竪穴建物跡全景（西から）

第29号竪穴建物跡貯蔵穴全景（北から）

図版２

第１号墳全景（南西から）

第１号墳主体部全景（南東から）

第１号墳・第３号溝土層断面（東から）

第２号墳全景（北西から）

第３号墳全景（北西から・R3年度）

第３号墳全景（東から・R4年度）

第４号墳全景（東から）

第３号溝状遺構全景（東から）

第４号溝状遺構土層断面（北から）

第87号土坑全景（南西から）

第90号土坑全景（東から）

第91号土坑全景（東から）

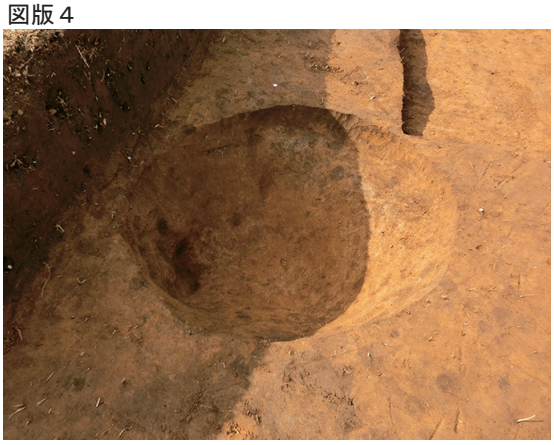
第92号土坑全景（南東から）

第94号土坑全景（東から）

第95号土坑全景（南西から）

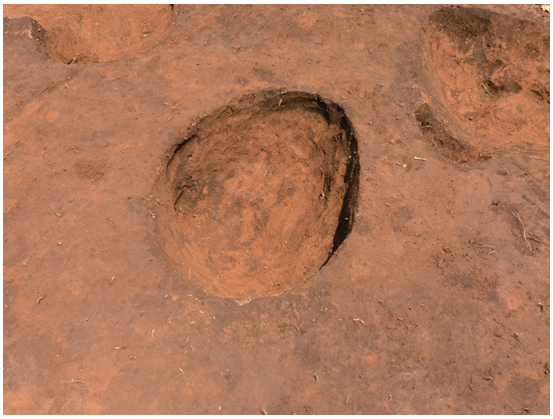
第97号土坑全景（北東から）

図版４



第99号土坑全景（南東から）

第100号土坑全景（北西から）



第101号土坑全景（南から）

第102号土坑全景（南東から）

第103号土坑全景（南から）

第23号柱穴全景（南西から）

第24号柱穴全景（東から）

第25号柱穴全景（東から）

第26号柱穴全景（南から）

第27号柱穴全景（西から）

調査風景１

調査風景２

調査風景３

調査風景４

調査風景５

調査風景６

図版６

第93号土坑

1

第96号土坑

1

縄文時代遺構外

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

弥生時代遺構外

1

2

3

第29号竪穴建物跡

1

2

3

4

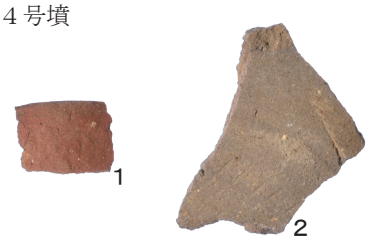
5

6

図版８

第３号墳

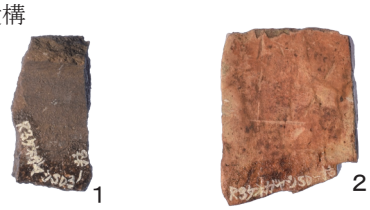
第４号墳



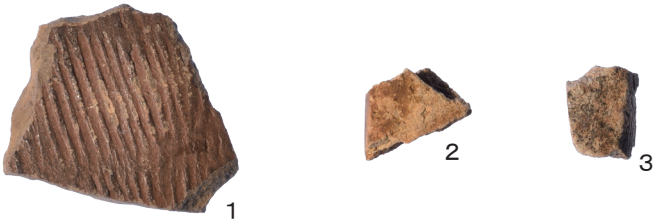
奈良・平安時代遺構外

古墳時代遺構外

第３号溝状遺構



近世遺構外



報告書抄録

ふりがな	ちばしたねがやついせき
書　　名	千葉市種ヶ谷津遺跡（第６・７次）
副 書 名	第二グラウンド整備に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小林　嵩
編集機関	公益財団法人　千葉市教育振興財団　事務局　埋蔵文化財調査担当
所 在 地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210　埋蔵文化財調査センター内　TEL：043-266-5433
発行年月日	2023年11月17日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
種ヶ谷津遺跡（たねやついせき）	中央区生実町（ちゅうおうくおゆみちょう） 2689-1ほかの各一部	12101	中央区 130	北緯 35° 35′ 30″ 東経 140° 09′ 37″	20210414 20210512 20210719 20210907 20220407 20220606 20230115 20230306	347 474 1,226 ㎡ 200	第二グラウンド整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
種ヶ谷津遺跡	包蔵地	縄文時代	土坑　６基	土器・土製品	陥穴３基
	包蔵地	弥生時代		土器	
	集落	古墳時代	竪穴建物跡　１軒	土器・土製品・石製品	
	墓域		古墳　方墳１基・円墳３基	土器・土製品・石製品	周溝内から石製紡錘車２点
	包蔵地	奈良・平安時代		土器	
	集落	近世	溝状遺構　２条	陶磁器類・石製品	

要　　約

１　縄文時代
陥穴が３基検出された。また、早期条痕文系・関山式・阿玉台式・加曽利EⅡ式の土器が僅かに出土した。

２　弥生時代
後期後葉の土器が僅かに出土した。

３　古墳時代
古墳時代中期の竪穴建物跡１基、方墳１基、古墳時代後期の円墳３基が検出された。古墳時代中期の方墳周溝内から石製紡錘車が２点出土した。

４　奈良・平安時代
遺構はないが土器類が僅かに出土した。

５　近世
溝状遺構が２条検出され、区画溝と道の可能性がある。陶磁器類や石製品が僅かに出土した。

千葉市種ヶ谷津遺跡（第６・７次）
－第二グラウンド整備に伴う埋蔵文化財調査報告書－
令和５年11月17日発行

編集・発行　公益財団法人 千葉市教育振興財団
事務局　埋蔵文化財調査担当
〒260-0814
千葉市中央区南生実町1210
埋蔵文化財調査センター内
ＴＥＬ：043-266-5433

印　　刷　株式会社　太陽堂印刷所
〒260-0843
千葉市中央区末広1-4-27
ＴＥＬ：043-222-1122